無線LAN親機
WSR-1166DHP3シリーズ

エアステーション設定ガイド

buffalo.jp

35021279-04

2018.12

目次

第１章　はじめに

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解/改造すること
  - 本製品の裏面に貼ってある証明レーベルをはがすこと
- W52、W53は、電波法により屋外での使用が禁じられています。
- 本製品は、次の場所で使用しないでください。
  電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4GHz付近の電波を使用しているものの近く（環境により電波が届かない場合があります。）
- 本製品の使用する無線チャンネル（2.4GHz帯の1〜13チャンネル）は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    (1)　構内無線局（免許を要する無線局）
    (2)　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
- 本製品を使用する際は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
  - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4 GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

- 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。
本来、無線LAN製品は、セキュリティーに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人　電子情報技術産業協会（JEITA）
「無線LANのセキュリティに関する注意事項」より

動作環境

本製品の動作環境は次の通りです。

対応機器・対応OS

<無線親機本体との無線接続>

無線LAN機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機など

<無線親機の設定変更>

Microsoft Edgeを搭載したWindows 10※1
Internet Explorer 8.0以降を搭載したWindows 8.1※1/7※1、
Safariを搭載したmacOS（10.5/10.6/10.7/10.8/10.9/10.10/10.11/10.12/10.13/10.14）、
iOS 5以降のiPod touch※2 / iPhone※2 / iPad※2、
Android 2.2以降のスマートフォン※2、タブレット端末※2

※1 64 ビットと32 ビットに対応しています。
※2 標準搭載のWebブラウザーを使った初期設定（インターネット接続設定）のみの対応となります。本製品の詳細設定には対応しておりません。

<エアステーション設定ツール（当社ホームページよりダウンロード）>

Windows 10（64 ビット/32 ビット）、Windows 8.1（64 ビット/32 ビット）、Windows 8（64 ビット/32 ビット）、Windows 7（64 ビット/32 ビット）、Windows Vista（64 ビット/32 ビット）、Windows XP（32ビット）、macOS（10.4/10.5/10.6/10.7/10.8/10.9/10.10/10.11/10.12/10.13/10.14）

各種ソフトウェアのご紹介

エアステーション設定ツール（Windows/Mac用）

エアステーション設定ツールは、本製品の設定画面をかんたんに表示するためのソフトウェアです。本製品とパソコンを接続して、エアステーション設定ツールを実行すると、本製品の設定画面を表示したり、本製品のIPアドレスを変更することができます。

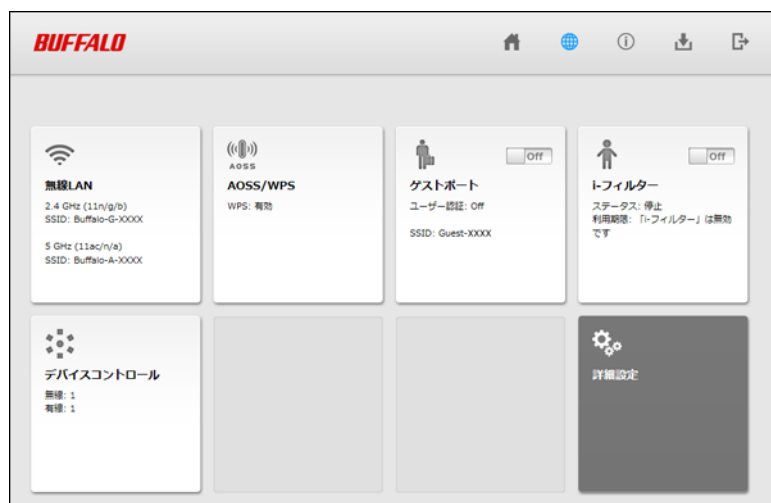
メモ: 本書の手順で各種設定を行うには、エアステーション設定ツールが必要となります。

第２章　本製品の設定画面

本章では、本製品の設定画面について説明します。

かんたん設定と詳細設定について

本製品の設定画面は、各種設定や機器診断を行う画面です。本製品の設定を変更するときや状態を確認したいときに使用します。
設定画面は「かんたん設定」と「詳細設定」に分かれており、用途によって使い分けることができます。少ない操作で設定を済ませたい場合は「かんたん設定」を、より高度な設定を行いたい場合は「詳細設定」をご利用ください。

かんたん設定の画面（一例）

詳細設定画面（一例）

メモ: 設定画面の操作が5分間ない場合、設定画面から自動的にログアウトします。

エアステーション設定ツールのインストール

以降の手順を行う前に、当社ホームページより「エアステーション設定ツール」をダウンロードしてください。Windowsをお使いの場合は、事前にインストールを行っておいてください。

メモ: 最新版のエアステーション設定ツールは、以下のホームページより入手できます。
http://d.buffalo.jp/wsr-1166dhp3/

設定画面を表示する

Windowsをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って、設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツールを起動します。
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。

メモ: パソコンに複数のネットワークアダプタが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプタを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。
その場合は、[このパソコンのIPアドレスを設定する]をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。しばらくすると、パソコンに新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」または「続行」をクリックしてください。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。

Macをお使いの場合

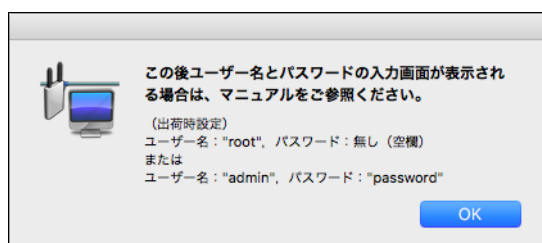
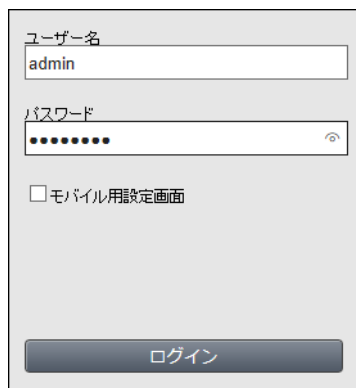
「エアステーション設定ツール」を使って設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツールを実行します。

2 [続ける]をクリックします。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、［続ける］をクリックします。

メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 ［設定画面を開く］をクリックします。

5 ［OK］をクリックします。

本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「このMacのIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。Macのパスワードを要求された場合はパスワードを入力して［OK］をクリックします。しばらくするとMacに新しいIPアドレスが設定され、「設定完了」画面が表示されます。［親機選択画面に戻る］をクリックし、もう一度手順3から行ってください。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[終了]をクリックして、画面を閉じてください。

モバイル用機器をお使いの場合

スマートフォン・タブレットの場合は、専用アプリ「StationRadar」を使用して本製品の設定画面にアクセスします。

メモ: このアプリは、スマートフォンやタブレットを本製品と接続した状態で使用してください。

1 AppStoreまたはGoogle Playで「StationRadar」を検索し、StationRadarをインストールします。

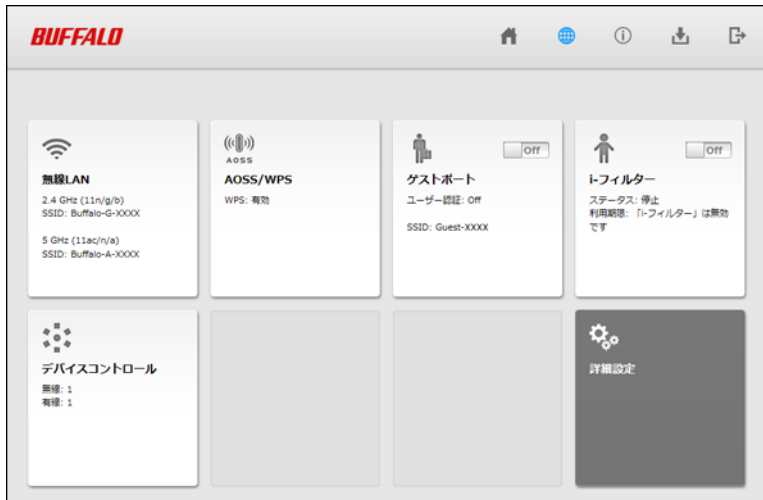
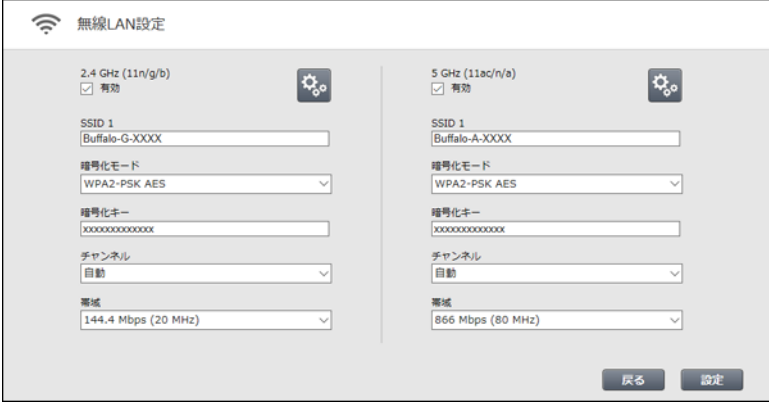
2 StationRadarを起動すると、自動的に検索が始まります。本製品が見つかったら、本製品の製品名をタップし、[設定画面を開く]をタップします。

3 ブラウザーが起動するので、ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をタップします。

4 本製品の設定画面が表示されます。

かんたん設定画面

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。

項目	内容
無線LAN	現在の無線LANの状態が表示されます。 パネルをクリックすると、無線LANの設定画面が表示されます。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 パネルをクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
ゲストポート	来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の状態が表示されます。 パネル上部で、ゲストポート機能の有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、ゲストポートの設定画面が表示されます。
i-フィルター	有害サイトへのアクセスを制限するサービスの状態が表示されます。 パネル上部でサービスの有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、サービスの詳細設定画面が表示されます。
デバイスコントロール	ネットワークに接続されている端末の台数が表示されます。 パネルをクリックすると、各端末の状態を確認することができます。
詳細設定	パネルをクリックすると、詳細設定画面が表示されます。
	クリックすると、トップ画面が表示されます。
	ルーターモード時のみ表示されます。インターネットへの接続状況を表示します。インターネットに接続できていないとき（　が表示されているとき）にクリックすると、インターネット接続の初期設定画面が表示されます。
	中継動作時のみ表示されます。親機との接続状況を表示します。親機と接続していないとき（　が表示されているとき）にクリックすると、親機との接続設定画面が表示されます。
	ファームウェアの更新がある場合などに点滅してお知らせします。クリックすると、本製品の動作モードが表示されます。
	インターネットに接続しているときにクリックすると、取扱説明書やソフトウェアなどのダウンロードページが表示されます。

項目	内容
	設定画面からログアウトします。

無線LAN（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

無線LANの基本設定を行う画面です。

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
2.4 GHz（11n/g/b） **5 GHz（11ac/n/a）**	無線の有効/無効を設定します。
SSID 1	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	端末との接続の際の暗号化モードを以下から選択します。 **WPA2-PSK AES** WPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 **WPA-PSK AES** WPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 **WPA/WPA2-mixed PSK TKIP+AES** WPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの認証も同時に行い、暗号化方式にTKIPまたはAESを使用します。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでのご使用は避けてください。
暗号化キー	端末との認証で使用する暗号化キーを入力します。 文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
帯域	無線で使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。

AOSS/WPS

パネルをクリックした際に以下の画面が表示されます。[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。

ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

来訪者用の一時的な接続先（ゲストポート）の設定を行います。

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
SSID	来訪者用のSSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
暗号化モード	来訪者用の暗号化モードを設定します。
利用可能時間	来訪者がゲストポートを利用できる時間を設定します。

i-フィルター（ルーターモード時のみ）

ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」に関する設定を行う画面です。
パネルをクリックすると、「i-フィルター」の詳細設定の画面が表示されます。

デバイスコントロール（ルーターモード時のみ）

ネットワークに接続されている端末の状態を確認する画面です。

項目	内容
	現在設定画面にアクセスしている端末のアイコン上に表示されます。
	本製品に無線接続している端末のアイコン上に表示されます。
	「この端末は未検出でも表示する」にチェックが入っている端末のアイコン上に表示されます。この端末は本製品に接続されていなくても表示されます。

IPアドレス確認画面

本製品に接続している各端末のIPアドレスが表示されます。
端末のアイコンをクリックすると、端末の個別設定が表示されます。

i-フィルター確認画面

本製品に接続している端末がi-フィルターから除外されているかどうかを表示します。
端末のアイコンをクリックすると、端末の個別設定が表示されます。

端末設定画面へのアクセス画面

本製品に接続している端末が設定画面のインターフェースが利用できる場合、アイコンをクリックするとその端末の設定画面を開きます。設定画面のインターフェースが利用できない場合は、グレー表示されているか、クリックしても表示されません。

Wake-on-LAN実行画面

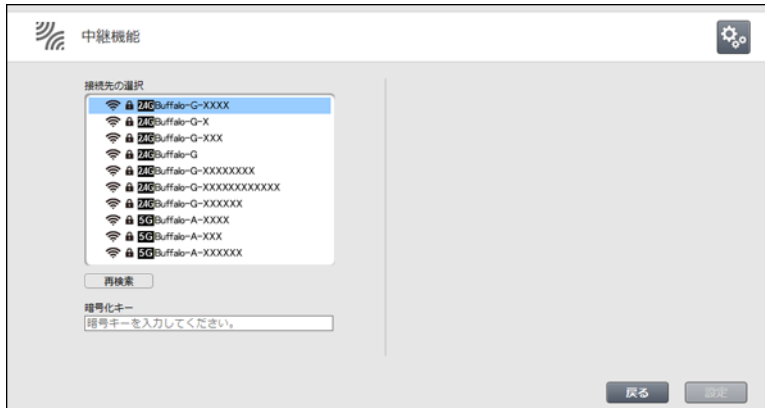
本製品に接続している端末のアイコンをクリックすると、その端末にWake-on-LANパケットを送信します。その端末がすでに動作している場合、またはWake-on-LANに対応していない場合は、パケットを送信しても何も起こりません。

端末の個別設定画面

項目	内容
デバイス設定	端末の名称やアイコンを変更することができます。名称は、半角英数字・記号で64文字まで入力できます。
IPアドレス	端末のIPアドレスが表示されます。
MACアドレス	端末のMACアドレスが表示されます。
i-フィルター	「除外する」にチェックを入れると、その端末ではi-フィルターの対象から除外されます。
デバイス検出	「この端末は未検出でも表示する」にチェックを入れると、本製品はこの端末の情報を記憶し、この端末が本製品に接続されていない状態でもこの端末をデバイスコントロール画面に表示します。

中継機能（中継動作時のみ）

をクリックすると表示されます。本製品を中継機として動作させるときに接続するSSIDを設定します。

自動的に親機のSSIDが検索されるので、接続するSSIDを選択して暗号化キーを入力し、[設定]をクリックしてください。

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
再検索	親機のSSIDをもう一度検索します。
暗号化キー	接続するSSIDに設定されている暗号化キーを入力します。

詳細設定画面

注意ボタンについて

上図のボタンが画面上に表示されている場合は、そのボタンをクリックしてください。その画面における注意事項が表示されるので、よくお読みになった上で設定を行ってください。

Internet

Internet側ポートの設定を行う画面です。

Internet　＞　Internet（ルーターモード時のみ）

項目	内容
IPアドレス取得方法	インターネット側のIPアドレスの取得方法を指定します。 **メモ:** Autoモードでは「インターネット@スタート」以外選択できません。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS（ネーム）サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。
Internet側MACアドレス	インターネット側のMACアドレスを設定します。 **メモ:** 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上の他の機器も使用できなくなる場合があります。この設定は、お客様の責任において行ってください。
Internet側MTU値	インターネットポートで通信を行うときに使用するMTUを578～1500バイトの範囲で設定します。

PPPoE

PPPoEに関する設定を行う画面です。

Internet　＞　PPPoE（ルーターモード時のみ）

項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
IP Unnumbered使用時の接続先	IP Unnumbered使用時の接続先を、PPPoE接続先リストに登録されている接続先の中から選択します。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

項目	内容
PPPoE接続先リスト	[接続先の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先名称** 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。 **接続先ユーザー名** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。 **接続先パスワード** PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。 **サービス名** プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。 **接続方法** 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。 **自動切断** 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。 **認証方法** プロバイダーとの認証方法を設定します。 **MTU値** PPPoE上で通信を行うときに使用するMTU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **MRU値** PPPoE上で通信を行うときに使用するMRU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 **キープアライブ** 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するためにLCPエコーリクエストを1分に1度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	[接続先経路の編集]をクリックすると表示されます。 **接続先** 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。 **宛先アドレス** 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛へ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。 **送信元アドレス** 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。

Dynamic DNS

ダイナミックDNSに関する設定を行う画面です。

Internet　＞　Dynamic DNS（ルーターモード時のみ）

項目	内容
ダイナミックDNS機能	ダイナミックDNSサービスプロバイダーを「BUFFALOダイナミックDNS」、「DynDNS」、「No-IP」から選択します。
登録/変更設定 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録/設定変更を行う］をクリックすると、バッファローサイトに接続します。画面上の手続きに従って、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録を行ってください。
登録ユーザーID （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	BUFFALOダイナミックDNSサービスに登録されているユーザーIDが表示されます。
登録情報の削除 （BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ）	［登録情報を削除する］をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。
ユーザー名 （DynDNS選択時のみ）	DynDNSに登録したユーザー名を入力します。
パスワード （DynDNS/No-IP選択時のみ）	DynDNSまたはNo-IPに登録したパスワードを入力します。
ホスト名 （DynDNS/No-IP選択時のみ）	DynDNSまたはNo-IPに登録したホスト名を入力します。
Emailアドレス （No-IP選択時のみ）	No-IPに登録したEmailアドレスを入力します。
IPアドレス更新周期 （DynDNS/No-IP選択時のみ）	IPアドレスを通知する周期を指定します。
強制更新を行う （No-IP選択時のみ）	有効にすると、IPアドレスが変更されていなくても通知を行います。
Internet側IPアドレス	InternetポートのIPアドレスが表示されます。
ドメイン名	ダイナミックDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名が表示されます。
状態	ダイナミックDNSサービスの状態が表示されます。

アドレス変換

アドレス変換機能に関する設定を行う画面です。

Internet　＞　アドレス変換（ルーターモード時のみ）

項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、アドレス変換の拡張設定項目が表示されます。
TCPタイムアウト時間	TCP通信におけるNATテーブルの保持期間を300～86400秒(1日)の範囲で設定します。 NATテーブルの不足により通信できなくなる場合に、TCPタイムアウト時間を短くするとで解決できることがあります。 ただし、TCPタイムアウト時間を短くした場合、ゲームなどの通信で切断が発生することがあります。

LAN

LAN側ポートの設定を行う画面です。

LAN　＞　LAN

項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー（IPアドレス自動割り当て）機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
LAN側IPアドレス（IP Unnumbered用）	IP Unnumberedを利用するときに使用すLAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 **メモ:** 通常のLAN側のIPアドレスを持つパソコンと、IP Unnumbered用のLAN側IPアドレスを持つパソコン間では通信を行うことができません。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。

項目	内容
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。

DHCPリース

DHCPリースに関する設定を行う画面です。

LAN　＞　DHCPリース（ルーターモード時のみ）

リース情報

IPアドレス	MACアドレス	リース期間	状態	操作
192.168.11.2 (*)	XX:XX:XX:XX:XX:XX	46:43:19	自動割当	手動割当に変更

* WEB設定を行っているパソコンのIPアドレス 192.168.11.2.

リース情報の追加

現在の状態を表示

項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更することができます。
[リース情報の追加]	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 **IPアドレス** 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLANポートのネットワークアドレスに含まれないIPアドレスを設定することはできません。 **MACアドレス** 端末を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定を行う画面です。

LAN　＞　経路情報

経路情報

宛先アドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	操作
経路情報はありません				

新規追加

項目	内容
宛先アドレス	ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを表示します。
ゲートウェイ	ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを表示します。
メトリック	ルーティングテーブルに追加するメトリック（宛先アドレスまでに越えるルーター数）を表示します。
経路情報	手動で追加したルーティングテーブルを確認することができます。
［新規追加］	クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。
経路の新規追加	［新規追加］をクリックすると表示されます。 **宛先アドレス** ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 **ゲートウェイ** ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。 **メトリック** ルーティングテーブルに追加するメトリック（宛先アドレスまでに越えるルーター数）を設定します

2.4 GHz（11n/g/b）

2.4 GHz（11n/g/b）の無線の基本的な設定を行う画面です。

無線設定　＞　2.4 GHz（11n/g/b）

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を300 Mbps（40 MHz）に設定して、拡張チャンネルを設定します。
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。 **メモ:** ANY接続を無効にすると、2.4 GHzでWPSを実行することができなくなります。
SSID 1 **SSID 2**	本製品のメインSSID（SSID 1）とサブSSID（SSID 2）を使用するかどうかを設定します。

項目	内容
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している端末はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	SSID 1へ接続する際に使用する認証方式を以下から選択します。 （SSID 2については、認証方式の選択はできません） **WPA-PSK** 端末との接続の際にWPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA2-PSK** 端末との接続の際にWPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA/WPA2 mixedmode-PSK** 端末との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの端末の認証も同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **認証を行わない** 端末との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	SSID 1へ接続する際に使用するデータ暗号化の種類を以下から選択します。 （SSID 2については、暗号化の種類がWEPのみとなり選択はできません） **TKIP/AES mixedmode** TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **AES** 暗号化の方式にAES（強固な次世代暗号化方式）を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA-PSK、WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK（事前共有キー）	端末との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
BSS BasicRateSet	本製品と端末の制御通信フレームの通信速度を設定します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格の端末が混在している環境でも、コリジョン等によって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	端末に通知するビーコン応答間隔（1～255）の設定をします。端末のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。

項目	内容
プライバシーセパレーター	端末間の無線通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している端末同士の無線通信ができなくなります。有線側からは、端末と通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。

5 GHz（11ac/n/a）

5 GHz（11ac/n/a）の無線の基本的な設定を行う画面です。

無線設定　＞　5 GHz（11ac/n/a）

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル（周波数帯）を設定します。DFSに対応したチャンネルを選択した場合は、本製品が気象レーダー等を関知すると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を866 Mbps（80 MHz）に設定してください。

項目	内容
ANY接続	チェックを外すと、無線機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。 **メモ:** ANY接続を無効にすると、5 GHzでWPSを実行することができなくなります。
SSID 1 **SSID 2**	本製品のメインSSID（SSID 1）とサブSSID（SSID 2）を使用するかどうかを設定します。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している端末はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	SSID 1へ接続する際に使用する認証方式を以下から選択します。 （SSID 2については、認証方式の選択はできません） **WPA-PSK** 端末との接続の際にWPA（Wi-Fi Protected Access）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA2-PSK** 端末との接続の際にWPA2（IEEE802.11i）に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **WPA/WPA2 mixedmode-PSK** 端末との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの端末の認証も同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 **認証を行わない** 端末との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	SSID 1へ接続する際に使用するデータ暗号化の種類を以下から選択します。 （SSID 2については、暗号化の種類がWEPのみとなり選択はできません） **TKIP/AES mixedmode** TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **AES** 暗号化の方式にAES（強固な次世代暗号化方式）を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA-PSK、WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 **暗号化なし** 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK（事前共有キー）	端末との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字（大文字/小文字の区別あり）を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f（大文字/小文字の区別なし）の10桁または26桁で入力します。
BSS BasicRateSet	本製品と端末の制御通信フレームの通信速度を設定します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。

項目	内容
802.11nプロテクション	従来規格の端末が混在している環境でも、コリジョン等によって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	端末に通知するビーコン応答間隔（1～255）の設定をします。端末のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	端末間の無線通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している端末同士の無線通信ができなくなります。有線側からは、端末と無線通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。

WPS

WPSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　WPS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。 **メモ:**「ANY接続」を無効にしている周波数帯では、WPSを実行することはできません。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーションのPINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	端末のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ端末からの接続要求を受け付ける状態になります。
WPS用無線セキュリティー設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティー、暗号化キーが表示されます。

AOSS

AOSSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

無線設定　＞　AOSS（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

項目	内容
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、をクリックすると、AOSS接続が解除されます。 （その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります）
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、本製品にWEPで接続できる端末は、WEPのみをサポートした端末となり、WPA（またはWPA2）とWEPの両方に対応した端末は、WEPでは接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます
AOSS接続先情報	本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の情報が表示されます。 **接続先情報** 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の名称が表示されます。 **MACアドレス** 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末のMACアドレスが表示されます。 **暗号化レベル** 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の対応可能な暗号化の種類が表示されます。 **無線** 現在、接続している無線方式が表示されます。 **AOSS** AOSSで接続しているときに表示されます。

MACアクセス制限

端末からのアクセスを制限する設定を行う画面です。

無線設定　＞　MACアクセス制限

項目	内容
無線パソコンの接続	端末からの接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	MACアクセス制限で、接続を許可する端末のMACアドレスが表示されます。MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。 **MACアドレス** MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。 **接続状態** リストに登録した端末が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。
登録リストの編集	登録したMACアドレスに対して、編集を行うことができます。 **MACアドレス** リストに登録した端末のMACアドレスが表示されます。 **操作** [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する端末のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品に接続している端末のMACアドレスをリストに登録することができます。 **MACアドレス** 本製品に接続している端末のMACアドレスが表示されます。 **操作** [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LANポートに無駄なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定を行う画面です。

無線設定　＞　マルチキャスト制御

項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線各ポートへのマルチキャストの転送を抑制することができる、マルチキャストSnooping（スヌーピング）機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を10～3600（秒）の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

ゲストポート

来客用の無線接続ポート（ゲストポート）の設定を行う画面です。

無線設定　＞　ゲストポート（ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ）

項目	内容
ゲストポート機能	来客用にインターネット回線を提供するための「ゲストポート機能」の有効／無効を設定します。
ゲストユーザー認証機能	ゲストとして登録したユーザーだけが通信できるように認証を行うかどうかを設定します。
ゲストポート用LAN側IPアドレス	ゲストユーザーに提供するLAN側IPアドレスを設定します。手動設定の場合、[推奨値を設定する]をクリックすると、ゲストポート用LAN側IPアドレスの推奨値が入力されます。
ゲストポート用DHCPサーバー機能	ゲストユーザー用にDHCPサーバー（IPアドレス自動割り当て）機能を使用するかどうかを設定します。
利用可能時間	ゲストポート機能を有効にしてから無効になるまでの時間を設定します。 指定した時間が経過すると自動的にゲストポート機能が無効になります。
SSID	ゲストユーザー用のSSIDを半角英数字記号で32文字以内で設定します。
無線の認証	ゲストユーザーが接続の際に使用する認証方式を指定します。
無線の暗号化	ゲストユーザーが接続の際に使用する暗号化方式を指定します。
WPA-PSK（事前共有キー）	ゲストユーザーが接続の際に使用する事前共有キーを指定します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーの更新間隔を設定します。
ゲストユーザーの表示/操作	ゲストユーザーの編集を行うことができます。 **ユーザー名** ゲストユーザーの認証に使用するユーザー名を半角記号64文字以内で登録します。 **パスワード** ゲストユーザーの認証に使用するパスワードを半角記号64文字以内で登録します。

無線引っ越し機能

無線引っ越し機能を使用した際の無線設定の引き継ぎ状況を表示する画面です。

無線設定　＞　無線引っ越し機能

無線引っ越し状態　無線引っ越し済み

無線引っ越し機能用セキュリティー設定

11n/g/b	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-G-XXXX WPA/WPA2-mixed mode - PSK TKIP/AES mixed mode xxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-G-XXXX-4 WPA/WPA2-mixed mode - PSK TKIP/AES mixed mode xxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-G-XXXX-2 認証を行わない WEP128 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-G-XXXX-3 認証を行わない WEP64 xxxxxxxxxxxxx
11ac/n/a	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-A-XXXX WPA/WPA2-mixed mode - PSK TKIP/AES mixed mode xxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-A-XXXX-4 WPA/WPA2-mixed mode - PSK TKIP/AES mixed mode xxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-A-XXXX-2 認証を行わない WEP128 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
	SSID セキュリティー 暗号鍵	Buffalo-A-XXXX-3 認証を行わない WEP64 xxxxxxxxxxxxx

引っ越しした設定を全削除

項目	内容
無線引っ越し状態	無線の引っ越しを実施したかどうかを表示します。
無線引っ越し機能用セキュリティー設定	無線引っ越し機能を使用して引き継いだ無線設定情報を表示します。
引っ越しした無線設定を全削除	クリックすると、無線引っ越し機能で引き継いだ無線設定をすべて削除します。

メモ:

- 無線の引っ越し方法は、別冊の「セットアップガイド」を参照してください。
- 一度無線の引っ越しを実施した状態でもう一度無線の引っ越しを行いたい場合は、[引っ越しした設定を全削除]をクリックして設定を削除してから実施してください。

中継機能（WB）

中継機能の設定を行う画面です。

無線設定　＞　中継機能（WB）（中継動作時のみ）

項目	内容
中継機能の状態	中継機能の状態を表示します。
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティー	接続先との接続で使用しているセキュリティーの種類が表示されます。
5 GHz / 2.4 GHz 選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
無線LAN親機設定	「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れると、本製品は、接続先に設定されているSSIDと暗号化の設定を引き継ぎます。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外すと、本体のAOSSボタンを押してもAOSSやWPS接続は行われなくなります。
［手動設定をする］	ボタンをクリックすると、本製品周辺の無線親機が検索されます。 接続したい無線親機を選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。
PINコード式	［PINを使用したWPSを開始する］をクリックすると、接続に必要なPINコードが発行され、本製品周辺の無線親機が検索されます。 接続したい無線親機を選択して［PIN実行］をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 接続先の無線親機に対して、2分以内にPINコードを登録すると、接続処理が完了します。
プッシュボタン式	［プッシュボタンによるWPSを開始する］をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。 2分以内に接続したい無線親機のAOSS/WPSボタンを押すと、接続処理が完了します。
AOSSの実行	をクリックすると、本製品はAOSSの待ち受け状態になります。 2分以内に接続したい無線親機のAOSSボタンを押すと、接続処理が完了します。

ファイアウォール

本製品のファイアウォール機能を設定する画面です。

セキュリティー　＞　ファイアウォール（ルーターモード時のみ）

項目	内容
簡易ルール	簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下の通りです。 **NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する** 有効にすると、Internet側からLAN側およびLAN側からInternet側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。 **IDENTの要求を拒否する** 有効にすると、Internet側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザー等のネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート:113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 **Internet側からのPINGに応答しない** 有効にすると、Internet側からのPINGに応答しなくなります。

IPフィルター

LAN側とInternet側の間で通過するパケットに関するIPフィルターの編集を行う画面です。

セキュリティー　＞　IPフィルター（ルーターモード時のみ）

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPフィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

VPNパススルー

IPv6パススルー、PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定を行う画面です。

セキュリティー　＞　VPNパススルー（ルーターモード時のみ）

項目	内容
フレッツIPv6サービス対応機能	アドレス変換においてフレッツIPv6サービス対応機能を使用するかどうかを設定します。
PPPoEパススルー	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがInternet - LAN間ですべて通過可能となり、LAN側に接続したパソコンでPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得することができるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。

ポート変換

ポート変換に関する設定を行う画面です。

セキュリティー　＞　ポート変換（ルーターモード時のみ）

項目	内容
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するInternet側（変換前）のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側（変換後）のポート番号（1～65535）を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

セキュリティー　＞　DMZ（ルーターモード時のみ）

DMZのアドレス

* WEB設定を行っているパソコンのIPアドレス 192.168.11.2.

項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します。 （RIPプロトコル（UDPポート番号520）のパケットは、転送されません）

UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)に関する設定を行う画面です。

セキュリティー　>　UPnP（ルーターモード時のみ）

UPnP　☑使用する

項目	内容
UPnP機能	Universal Plug and Play（UPnP）機能を使用するかどうかを設定します。

i-フィルター

ホームページの表示を許可/ブロックする「i-フィルター」に関する設定を行う画面です。

セキュリティー　>　i-フィルター（ルーターモード時のみ）

「ご利用上のご注意」
- 「i-フィルター」はデジタルアーツ株式会社の提供するサービスです。ご利用には同社のサービスサイトでのユーザー登録が必要となります。
- 本機能によりフィルターされるセッションは、デフォルトセッション中のHTTP通信のみとなります。PPPoEマルチセッションをご利用の場合や、SSL通信、外部プロキシサーバーをご利用の場合は、フィルター機能は動作しません。ご了承下さい。
- サービスサーバーとの通信障害時、その旨を表示するページが表示されます。詳細については「i-フィルター」サービスサイトにてご確認下さい。
- 本機能をPPPoEマルチセッションでご利用になられる場合、デフォルトのセッションがインターネットに接続されている必要があります。
- エアステーションのPPTPサーバーに接続しているPPTPクライアントは、i-フィルターの対象外となります。
- 本機能を利用する場合、ブラウジング等の速度が低下する場合があります。

ご利用の前に　「i-フィルター」サービスページ >>

※.このボタンをクリックすると、インターネット上の「i-フィルター」サービスページへ接続します。
「i-フィルター」をはじめてご利用の方は、このボタンをクリックし、ユーザー登録を行ってください。

「i-フィルター」機能　☐使用する

フィルター除外パソコンリスト

MACアドレス	IPアドレス	パソコン名
MACアドレスが登録されていません		

除外パソコンリストの編集

設定

項目	内容
「i-フィルター」サービスページ >>	「i-フィルター」を利用するためのユーザー登録を行う機能です。
「i-フィルター」機能	チェックをすることで有効になります。無効時は他の設定機能を表示しません。管理パスワードの入力によって閲覧禁止が解除できるようになりますので管理パスワードの設定を推奨します。管理設定メニューのパスワードから変更可能です。
利用期限	「i-フィルター」機能有効時、かつ認証サーバーより、契約期間が取得済みの場合、YYYY/MM/DDの形式で表示します。
閲覧禁止カテゴリー	閲覧禁止カテゴリーを設定します。
フィルター除外パソコンリスト	フィルターの除外パソコンの一覧が表示されます。

アクセスコントロール

お使いの端末がインターネットに接続できる時間を設定する画面です。

セキュリティー　＞　アクセスコントロール（ルーターモード時のみ）

項目	内容
アクセスコントロール	インターネットへの接続を制限する場合に「使用する」にチェックを入れます。
新規追加	インターネットへの接続を許可する（または制限する）時間帯や曜日、対象となる端末などのルールを設定する場合にクリックします。

QoS

インターネットへ送信するパケットの優先制御を設定する画面です。

アプリケーション　＞　QoS（ルーターモード時のみ）

項目	内容
インターネットへの送信用QoS	インターネットへの送信するパケットを優先制御するかどうかを設定します。優先制御をする場合は、チェックを入れて、以下の内容を設定します。
上り回線帯域幅	本製品からインターネット側への上り回線の通信帯域（実際の値）をkbps単位で指定します。
有効	そのリストの有効/無効を切り替えます。
アプリ名	アプリケーション名を入力します。
プロトコル	TCP、UDPのいずれかを選択します。
宛先ポート	宛先ポートを1～65535で指定します。空欄にすると、任意のポートが対象になります。
優先度	高、中、低のいずれかを選択します。 インターネットへの送信用QoSで、設定に該当しない通信は、中と低の中間の優先度になります。

スケジュール

本製品の節電機能の設定を行う画面です。

アプリケーション　＞　スケジュール

項目	内容
省電力	あらかじめ登録したスケジュールにしたがって、節電機能を使用するかどうかを設定します。
ユーザー定義モード	節電の内容について、「ランプ」、「LAN側有線」、「LAN側無線」を組み合わせて設定します。 **ランプ** 節電時のランプの動作を設定します。 通常動作の場合、ランプが点灯します。 オフの場合、ランプがOFFになります。 **LAN側有線** 節電時の有線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、最大1000 Mbpsで通信を行います。 エコ（低速動作）の場合、最大通信速度が100 Mbps/10 Mbps自動で動作します。 オフの場合、有線LANがOFFになります。 **LAN側無線** 節電時の無線LANの動作を設定します。 通常動作の場合、無線LANをご利用いただけます。 オフの場合、無線LANがOFFになります。
週間スケジュール	「スケジュール登録」で設定したスケジュールが表示されます。

項目	内容
スケジュール登録	節電の開始/終了スケジュールについて、「動作モード」、「開始時間」、「終了時間」、「曜日」を組み合わせて設定します。 **動作モード** 節電時の動作モードを設定します。 通常動作の場合、省電力機能を使用せず動作します。 ユーザー定義の場合、「ユーザー定義モード」で設定した動作を行います。 **開始時間** 開始時間を0:00～23:30まで30分単位で設定します。 **終了時間** 終了時間を0:30～24:00まで30分単位で設定します。 **曜日** スケジュールを実行する曜日を設定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定する画面です。

管理　＞　システム設定

項目	内容
エアステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。

項目	内容
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザー名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードを半角英数字と「_」で、8文字までで設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品の無線ポートに接続された端末から本製品の設定をできないようにします。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLANポートに接続された端末から本製品の設定をできないようにします。
Internet側リモートアクセス設定を許可する	Internetに接続されたネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを別途設定します。
デバイスのwwwポート監視を禁止する	チェックを入れると、本製品は設定画面を持つ端末の検出を中止します。 セキュリティーソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを入れてください。
NTP機能	本製品の内部時計をNTPサーバーを使って設定するかどうかを指定します。
NTPサーバー	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期（1～24時間毎）を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン（グリニッジ標準時からの時差）を指定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定を行う画面です。

管理　＞　ログ

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。

項目	内容
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定を保存・復元したり、本製品の初期化/再起動を行う画面です。

管理　＞　設定管理/再起動

項目	内容
操作	操作内容を選択します。 **設定ファイルを保存する** 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。 [設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定ファイルを復元する** 本製品の設定を、設定ファイルから復元します。 「設定ファイル」欄の[ファイルを選択]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 **設定を初期化する** 本製品の設定を初期化して、再起動します。 [設定操作実行]をクリックしてください。
再起動	クリックすると、本製品が再起動します。

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

管理　＞　ファームウェア更新

項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	ファームウェアの更新方法を設定します。 **ローカルファイル指定** パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。 **自動更新（オンラインバージョンアップ）** インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。
ファームウェア自動更新機能	ファームウェアの自動更新方法を設定します。 **重要な更新のみ行う** セキュリティーに関わる脆弱性の対応など、重要な更新があった場合、ファームウェアを自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **常に最新版に更新する** 本製品の新しいファームウェアがリリースされると、自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 **更新せずに通知のみ行う** 新しいファームウェアがリリースされたときに、設定画面に通知します。本製品への適用は行いません。 **更新しない** 新しいファームウェアがリリースされても、設定画面への通知や本製品へ適用は行いません
現在時刻	現在の時刻が表示されます。
更新時刻	自動更新を行う時間帯を設定します。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

ステータス　＞　システム

製品名	XXX-XXXXXXX Ver. XXX(RXXX/BXXX)	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX	
動作モード	ルーターモード	
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う - PPPoE接続
	接続先	Internet@Start (デフォルトの接続先)
	接続状態	通信中
	操作	停止
	IPアドレス	XXXXXXXXXXX
	PPPサーバーIP	XXXXXXXXXXX
	DNS1(プライマリー)	XXXXXXXXXXX (自動取得)
	DNS2(セカンダリー)	XXXXXXXXXXX (自動取得)
	MTU値	1454
	有線リンク	100Base-TX (半二重)
	MACアドレス	XXXXXXXXXXXX
LAN	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	MACアドレス	XXXXXXXXXXXX
無線(2.4 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1	Buffalo-G-XXXX
	認証方式	WPA2-PSK
	暗号化	AES
	ANY接続	許可する
	プライバシーセパレーター	使用しない
	無線チャンネル	1(自動設定)
	倍速モード	20 MHz
	MACアドレス	XXXXXXXXXXXX
無線(5 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1	Buffalo-A-XXXX
	認証方式	WPA2-PSK
	暗号化	AES
	ANY接続	許可する
	プライバシーセパレーター	使用しない
	無線チャンネル	60(自動設定)
	倍速モード	80 MHz
	MACアドレス	XXXXXXXXXXXX
ゲストポート機能	状態	使用しない
i-フィルター	使用しない	
エコモード	状態	スケジュール機能無効

現在の状態を表示

項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	Internetポートの情報が表示されます。
LAN	LANポートの情報が表示されます。
無線（2.4 GHz）	2.4 GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
無線（5 GHz）	5 GHz帯の無線LANポートの情報が表示されます。
ゲストポート	ゲストポートの情報が表示されます。
i-フィルター	i-フィルター機能に関する情報が表示されます。
エコモード	節電の状態が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

ステータス　＞　ログ

項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

ステータス　＞　通信パケット

インターフェース	送信パケット数		受信パケット数	
	正常	エラー	正常	エラー
Internet側有線	2933	0	4170	0
PPPoE No.1: Internet@Start	0	0	0	0
LAN側有線	0	0	0	0
LAN側無線(2.4GHz)	0	0	0	0
LAN側無線(5GHz)	0	0	0	0

現在の状態を表示

項目	内容
送信パケット数	LAN側有線、Internet側有線、LAN側無線、PPPoEに送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。
受信パケット数	LAN側有線、Internet側有線、LAN側無線、PPPoEから受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。

診断

本製品からネットワーク上の他の端末との接続確認を行う画面です。

ステータス　＞　診断

項目	内容
宛先アドレス	接続確認を行う端末のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第３章　本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

管理パスワードを変更する

管理パスワード（設定画面のパスワード）は、初期設定では「password」に設定されています。そのままご使用になると、不正アクセスを受けたり、第三者によって意図しない設定に変更されたりする可能性があります。本製品の管理者だけが設定を変更できるように、以下の手順に従って管理パスワードを変更してください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「管理」ー「システム設定」をクリックします。

3 「管理パスワード」に新しいパスワードを入力し、[設定]をクリックします。

管理パスワードは、半角英数字またはアンダーバー（_）で1〜8文字で設定してください。
変更した管理パスワードを忘れると設定画面を表示できなくなりますので、必ず控えをとってください。

メモ:

- 生年月日や名前など、第三者から類推されやすい単語は管理パスワードに設定しないでください。
- 管理パスワードを忘れた場合は、本製品のRESETボタンを約3秒間押して、本製品の設定を初期化してください。その場合、パスワード以外の設定（インターネット設定や無線接続設定など）も初期化されます。

以上で設定は完了です。

節電機能を使って節電する

節電機能は、あらかじめ登録したスケジュールにしたがって、本製品を省電力状態にすることで、消費電力を抑える機能です。設定は以下の手順で行います。

メモ:

- 節電機能は、ランプ（通常動作/オフ）、LAN側有線（通常動作/低速動作/オフ）、LAN側無線（通常動作/オフ）の動作を切り替えることにより電力消費を抑えます。
- 本製品の状態が切り替わる際、通信が一時的に切断されます。また、ユーザー定義でLAN側有線やLAN側無線のどちらかを有効（または低速動作）に設定していても、通信が一時的に切断されますので、通信中の場合はご注意ください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「管理」ー「システム設定」をクリックします。

3 NTP機能に「使用する」、NTPサーバーに「ntp.jst.mfeed.ad.jp」と表示されていることを確認します。

メモ:

- NTP（Network Time Protocol）とは、正しい時刻に時計を修正・同期する仕組みです。任意のNTPサーバーを設定することもできますが、特に問題ない限りは初期設定（ntp.jst.mfeed.ad.jp）をご使用ください。
- 節電機能の設定を行うには、NTP設定を有効にする必要があります。（出荷時設定では有効になっています）
- アクセスポイントモード（ルーター機能オフ）時は、本製品の設定画面の「詳細設定」ー「LAN」ー「LAN」でデフォルトゲートウェイとDNS（ネーム）サーバーアドレスの設定（※）が必要です。
  ※ ご使用中のルーター（ルーター内蔵モデムを含む）やCTUのIPアドレスと同じ値を設定してください。

4 「詳細設定」ー「アプリケーション」ー「スケジュール」をクリックします。

5 省電力で「使用する」にチェックを入れ、ユーザー定義モードを設定して［設定］をクリックします。

ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
ランプ - オフ
LAN側有線 - エコ（低速動作）
LAN側無線 - オフ

6 スケジュールを登録して［新規追加］をクリックします。

ここでは例として、以下のように設定します。
設定例：
動作モード - ユーザー定義
開始時間 - 0:00
終了時間 - 6:00
曜日 - 月、火、水、木、金
※ 本製品に登録できるスケジュールは1つだけです。登録済みのスケジュールを変更したい場合は、新しいスケジュールで上書きしてください。

以上で設定は完了です。

来訪者向け無線設定を行う（ゲストポート設定）

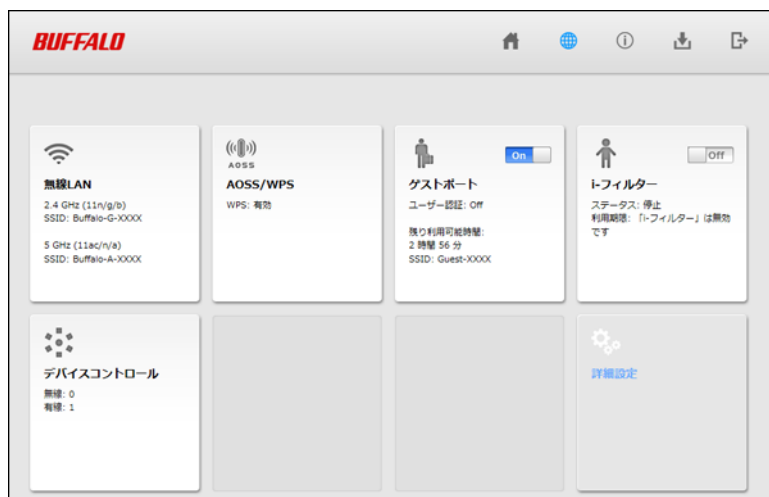
本製品では、通常のネットワークから隔離された別の無線ネットワーク（ゲストポート）を設定することができます。このゲストポートを活用することで、自宅のネットワークのセキュリティーを保ちつつ、来訪者に対してインターネット環境を提供することができます。

メモ: ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側から他のネットワークにアクセスすることはできません。

来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合

ここでは例として、かんたんにゲストポートを有効にする手順を説明します。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「ゲストポート」をOnに切り替えます。

ゲストポートをOnに切り替えることで、以下の設定が行われます。
ユーザー認証 - Off
利用可能時間 - 3時間
SSID - Guest-XXXX（MACアドレスの下4桁）
暗号化設定 - なし

メモ:

- 暗号化設定を行ったり、利用可能時間を変更したい場合は、上記の画面で「ゲストポート」のパネルをクリックしてください。
- 高度な設定を行いたい場合は、以下の「高度な設定を行う場合」を参照してください。

高度な設定を行う場合

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「ゲストポート」をクリックします。

3 [ゲストユーザーの編集]をクリックします。

4 ゲストユーザーを設定し、[新規追加]をクリックします。

メモ: ゲストユーザーは5人まで登録できます。

5 [編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

6 ゲストポート機能とゲストユーザー認証機能を「使用する」に設定し[設定]をクリックします。

メモ: 来訪者がネットワークに接続すると、ユーザー名とパスワードが求められますので、手順4で設定したユーザー名とパスワードを入力してください。

以上で設定は完了です。

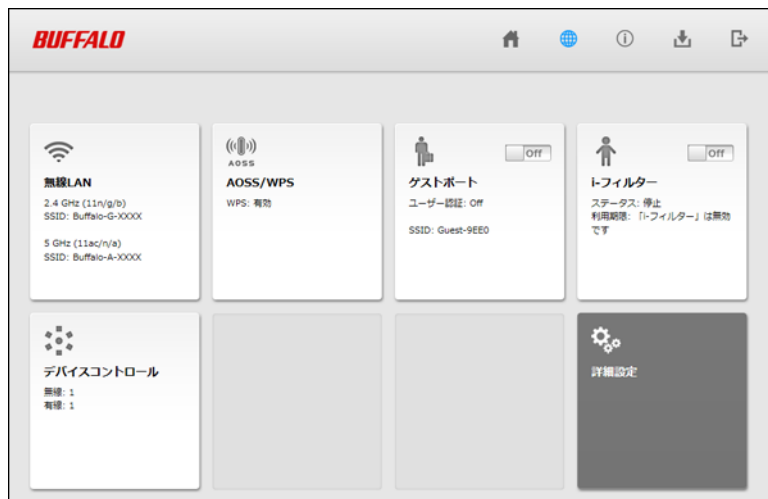
無線チャンネルを変更する

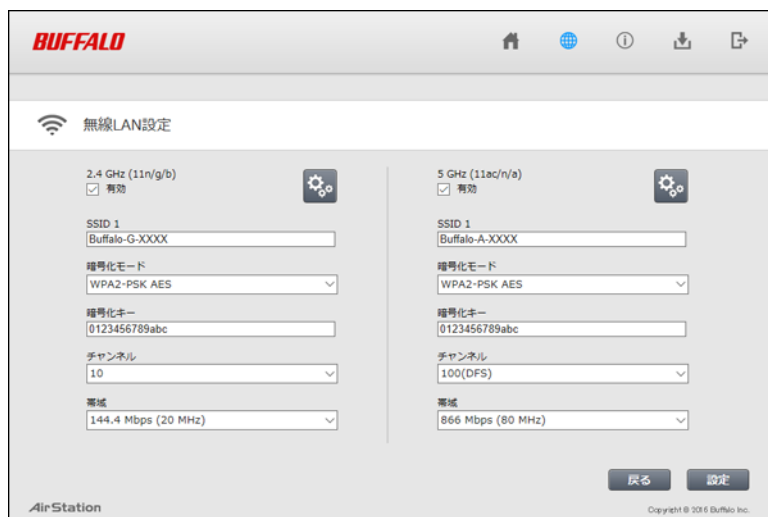
本製品は、電波混雑防止機能により他の端末が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はチャンネルを設定する必要はありません。ただし、周囲に多くの無線機器がある場合、チャンネルが正しく設定されず、電波干渉が発生して転送速度が低下してしまうことがあります。
その場合は、以下の手順でチャンネルを設定してください。

メモ:

- 設定するチャンネルによっては、他の無線機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接する無線機器に異なるチャンネルを設定するとき、隣りあったチャンネルなどの近い周波数では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「無線LAN」のパネルをクリックします。

3 無線チャンネルを選択して[設定]をクリックします。

メモ:

- 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。
- 5 GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダー等を感知すると、自動的に他の無線チャンネルへ変更されます。その際、1分程度無線通信ができなくなります。
- W52（36/40/44/48チャンネル）およびW53（52/56/60/64チャンネル）は、電波法により屋外で使用することが禁止されています。
- 2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
- 無線機器から設定を行っている場合、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、いったんAOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。
AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべての無線機器が本製品から切断されます。各機器の取扱説明書を参照して、もう一度無線機器を本製品に接続してください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「無線設定」ー「AOSS」をクリックします。

3 AOSS接続解除ボタン をクリックします。

以上で設定は完了です。

他の端末から本製品を検索できなくする（ANY接続拒否設定）

本製品に無線接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、他の端末から本製品を検索することができなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくすることができます。
設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSSとANY接続拒否設定は同時に使用できません。以下の設定を行う前に、前述の「AOSS接続を解除する」を参照してあらかじめ設定を変更してください。
（以下の設定を行った後にAOSSを使って無線接続すると、ANY接続が「許可する」に設定変更されます）
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。
- ANY接続を無効にした周波数帯では、WPS接続を実行することはできません。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「無線設定」ー「2.4 GHz（11n/g/b）」または「詳細設定」ー「無線設定」ー「5 GHz（11ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。

3 ANY接続の「許可する」をクリックし、チェックを外して[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

アクセス可能な端末を制限する（MACアクセス制限）

本製品に接続する端末のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その端末のみ本製品へのアクセスを許可することができます。設定は以下の手順で行います。

メモ: AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、前述の「AOSS接続を解除する」を参照して本製品の設定を変更してください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「無線設定」ー「MACアクセス制限」をクリックします。

3 [登録リストの編集]をクリックします。

4 無線で接続できる端末を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている端末のMACアドレスが表示されています。

ここで、接続可能にする端末のMACアドレスのみを［登録］をクリックして登録します。

「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない端末を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する端末のMACアドレスを入力し、［新規追加］をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロン(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。

5 登録が終わったら、［編集を終了して前の画面へ戻る］をクリックします。

6 「制限する」をクリックしてチェックを入れ、［設定］をクリックします。

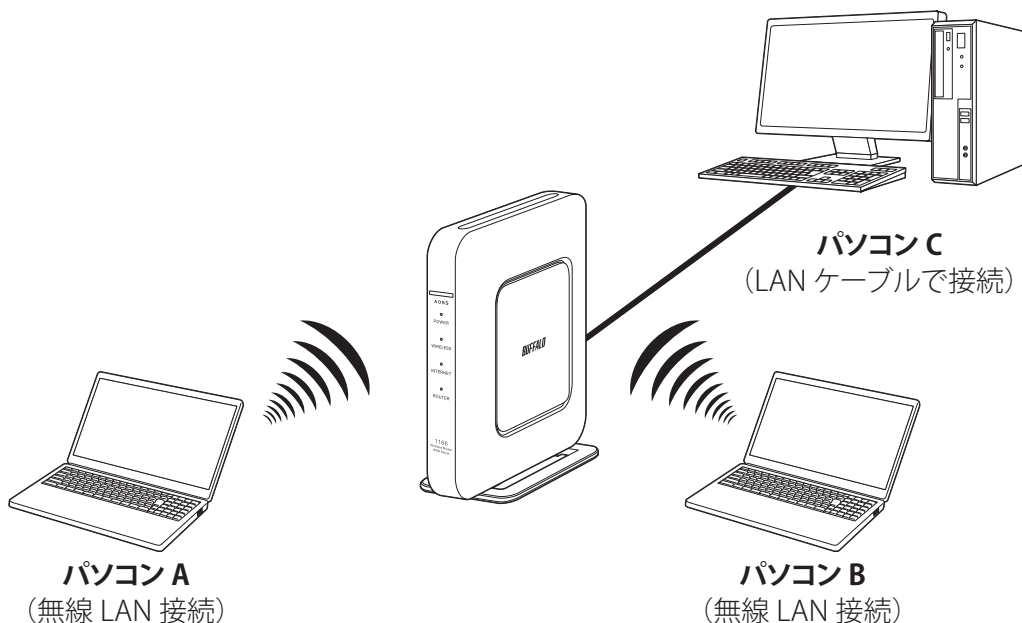
メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。

7 「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、［設定］をクリックします。

以上で設定は完了です。

端末同士の通信を禁止する（プライバシーセパレーター）

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品に接続している端末同士のアクセス（共有フォルダーなどへのアクセス）を禁止することができます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している端末がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止することはできません。例えば、以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンＡ－Ｂ間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなりますが、パソコンＡ－Ｃ間やパソコンＢ－Ｃ間はアクセス可能となります。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4 GHz（11n/g/b）」または「詳細設定」－「無線設定」－「5 GHz（11ac/n/a）」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯（2.4 GHzまたは5 GHz）ごとに設定することができます。

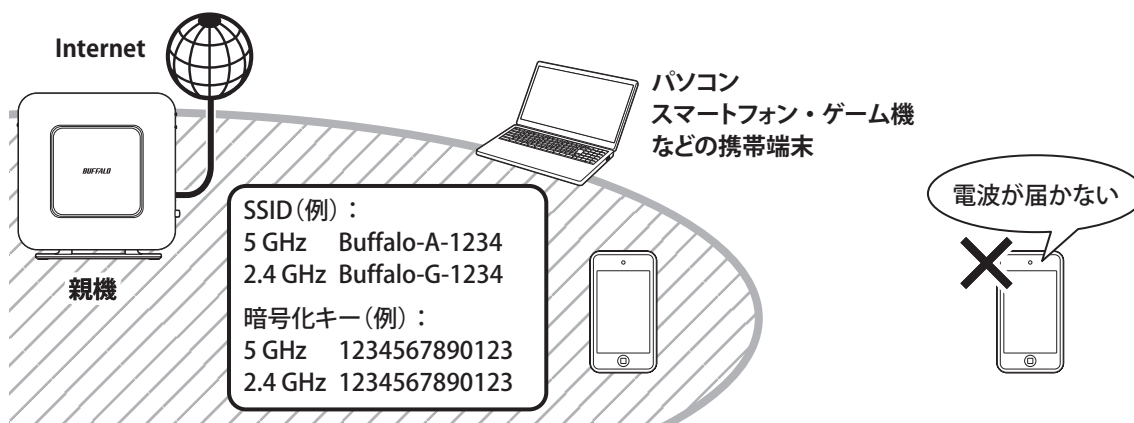
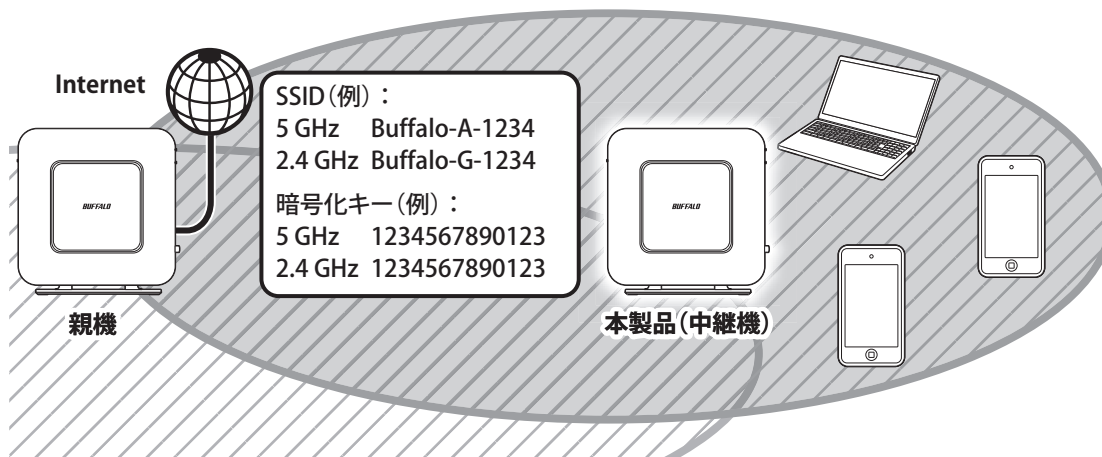
3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」をクリックしてチェックを入れ、［設定］をクリックします。

以上で設定は完了です。

本製品を中継機として使用する

通信環境に障害物があると、電波が届きにくくなったり、通信速度が低下することがあります。
中継機能を使用すると、中継機として設定した本製品を介して電波が届くため、障害物を回避し、安定した通信を行うことができます。ここでは、本製品を中継機として使用する方法を説明します。

ご利用イメージ

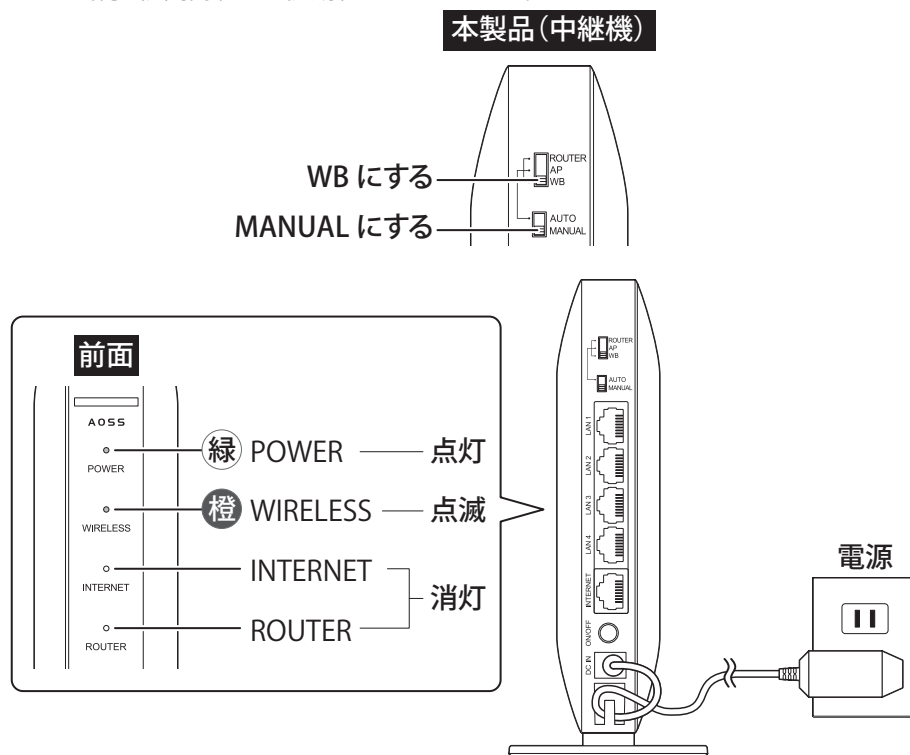
中継機導入前

中継機導入後

- 本書に記載の手順で設定を行うと、本製品は親機の設定（SSIDや暗号化キー）を引き継ぎますので、ご利用中の端末（パソコンや携帯端末など）の設定を変更することなくお使いいただけます。
- 中継機設定は、以下の3つの方法があります。それぞれの手順は、関連する項目を参照してください。
  - 本体のボタンを押して設定する方法
  - 親機の暗号化キーを入力して設定する方法
  - WPS（PINコード式）で設定する方法
- 上記の「中継機 導入後」の図において、パソコンや携帯端末を親機に近づけた場合、それらの端末は本製品から親機へ接続を自動的に切り替え（ローミングを行い）ます。
- 親機にMACアクセス制限設定をしている場合は、後述の「MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する」を参照して設定してください。

本体のボタンを押して設定する（AOSS、WPSプッシュボタン式）

ここでは、本体のボタンを押して設定する手順（AOSS/WPSプッシュボタン式）を説明します。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品（中継機）の背面のスイッチを「WB」、「MANUAL」にして、電源を入れます。
約1分後、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点灯するまで（約3秒間）押して初期化してください。

3 本製品（中継機）のAOSSボタンを、ワイヤレスランプが2回周期で緑色に点滅するまで（約1秒間）押し続けます。
2回周期で点滅したら、ボタンから手を離します。

4 親機のAOSS/WPSボタンを押して、AOSS/WPS接続を開始します。
ボタンを押す間隔は、お使いの親機によって異なります。

5 約2分後、本製品（中継機）のワイヤレスランプが緑色に点灯していることを確認します。

メモ:

- 本製品のワイヤレスランプが緑色に点滅している場合、2分程度待ってから再度ランプの状態を確認してください。
- その後もワイヤレスランプの点滅が続いている場合は、手順3〜4をもう一度行ってください。

以上で中継機の設定は完了です。

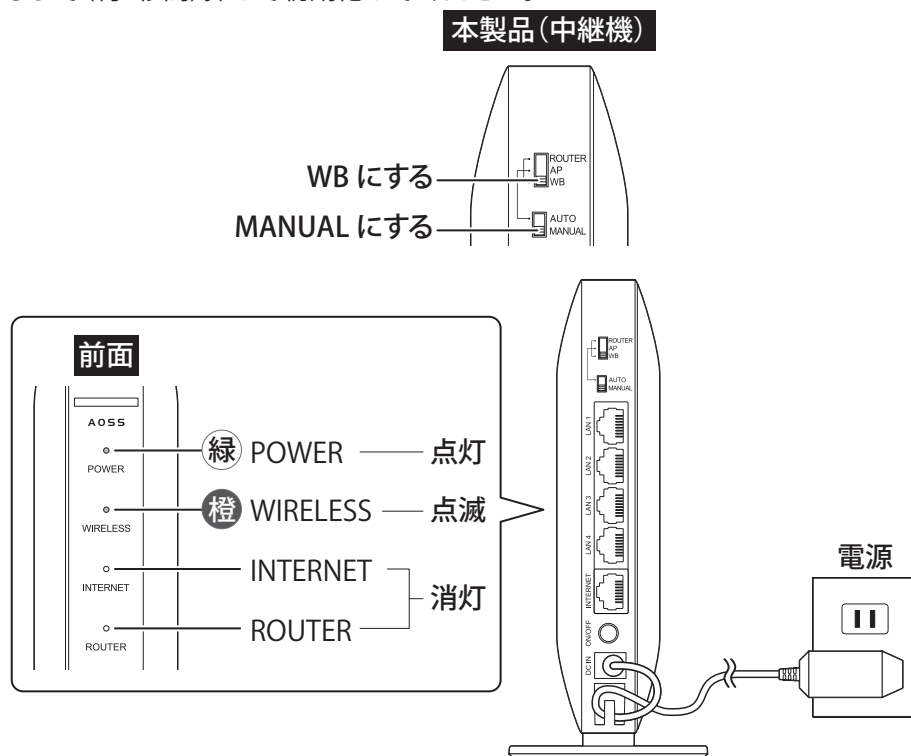
親機の暗号化キーを入力して設定する（手動設定）

ここでは、親機に設定されている暗号化キーを使って設定する手順（手動設定）を説明します。

メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面のスイッチを「WB」、「MANUAL」にして、本製品（中継機）の電源を入れます。
1分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押して初期化してください。

3 第5章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 Webブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 「詳細設定」－「無線設定」－「中継機能（WB）」をクリックします。

8 「手動接続をする」をクリックします。

9 接続先の親機を選択し、[選択]をクリックします。

10 接続先の親機の暗号化キーを入力し、[決定]をクリックします。

11 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

WPS（PINコード式）で設定する

ここでは、中継機を接続する際に、PINコードを使って設定する手順を説明します。

メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 すでに設置済みの親機に、お使いの端末（パソコンや携帯端末など）を接続してインターネットに接続できることを確認します。

インターネットに接続できない場合、親機の説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 背面のスイッチを「WB」、「MANUAL」にして、本製品（中継機）の電源を入れます。

1分程度して、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押して初期化してください。

3 第5章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 Webブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 「詳細設定」ー「無線設定」ー「中継機能（WB）」をクリックします。

8 「PINを使用したWPSを開始する」をクリックします。

9 画面上部に表示されている「PINコード」を控え、接続先の親機を選択し、[PIN実行]をクリックします。

メモ: [PIN実行]をクリックすると、「WPSを実施しています。」と表示されますので、2分以内に手順10〜12を完了させてください。

10 別のパソコンなどを使って、接続先の親機の設定画面を表示します。

11 WPS設定の画面を表示します。

メモ: 親機が当社のエアステーションシリーズである場合は、無線設定ページにあるWPSの画面を表示します。

12 手順9で控えたPINコードを登録します。

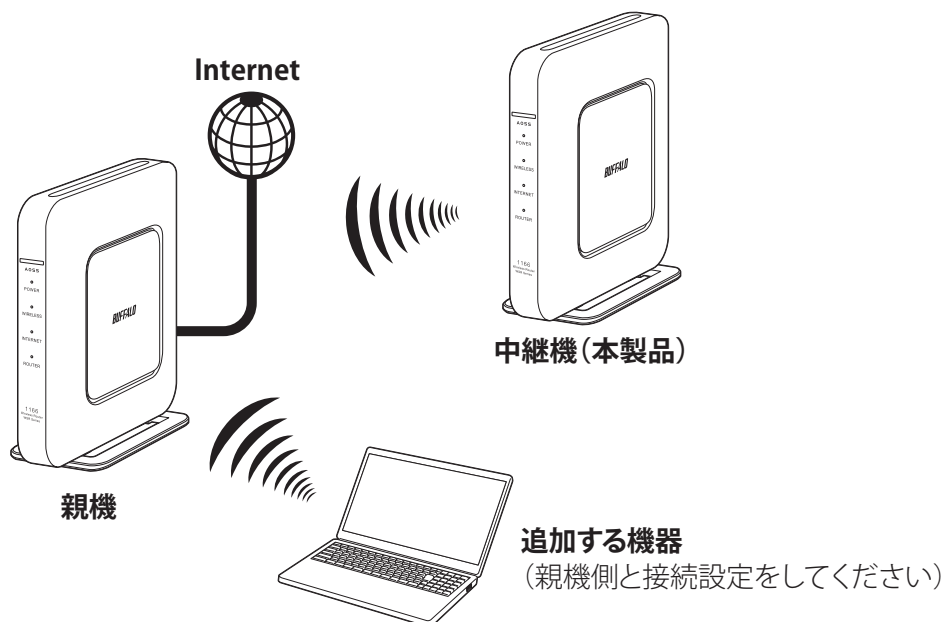
WPS機能	☑使用する	
外部Registrar	☑使用する	
エアステーションのPINコード	XXXXXXXX	PIN生成
EnrolleeのPINコード	XXXXXXXX	OK

メモ: 親機が当社のエアステーションシリーズである場合は、「EnrolleeのPINコード」にPINコードを入力してください。

13 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

端末を追加する場合

ここで設定した環境に端末を追加する場合は、お使いの無線親機の取扱説明書を参照し、無線親機と各端末を接続してください。

メモ: 中継機とパソコンなどの各端末間は、直接接続設定を行うことはできません。
（無線親機と接続設定を行うことで、中継機にも接続できるようになります）

MACアクセス制限を使用している環境で中継機として使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの端末のMACアドレスを親機に登録し、制限をかけます。
一方、中継機を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合には、中継機の無線MACアドレスを親機に登録し、その中継機に接続する端末のMACアドレスを中継機に登録する必要があります（端末が親機に直接接続する可能性がある場合は、親機にも登録します）。
中継機の無線MACアドレスが親機に登録されていない場合、中継機から親機への通信が制限されてしまい、中継機に接続している端末からは、中継機を経由した通信ができません。
以下の手順に従って、設定を行ってください。

設定に必要な機器

- **中継機（本製品）**
- **インターネットに接続済みの親機**
  ここでは例として、親機にもWSR-1166DHP3を使用しています。
- **LAN端子を持つパソコン**
  中継機の設定を行う際に必要です。パソコンにLAN端子がない場合は、USB接続用のLANアダプターなどを別途ご用意ください。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。

ステップ 1　端末のMACアドレスを中継機（本製品）、親機に登録する
ステップ 2　中継機（本製品）のMACアドレスを親機に登録する

それぞれのステップにおける手順は、以下の「設定手順」を参照してください。

設定手順

ステップ 1　端末のMACアドレスを中継機（本製品）、親機に登録する

MACアクセス制限後は、ここで登録していない端末は、中継機（本製品）および親機に無線接続できなくなりますのでご注意ください。

1 端末のMACアドレスを中継機（本製品）に登録します。本章の「アクセス可能な端末を制限する（MACアクセス制限）」を参照して設定を行ってください。

2 親機側にMACアクセス制限が設定されている場合は、一時的に親機のMACアクセス制限を無効にします。

メモ: ここで無効にしたMACアクセス制限は、ステップ 2でもう一度有効にします。

端末が中継機（本製品）にのみ接続する（親機に直接接続しない）場合は、以下の手順は不要です。ステップ 2に進んでください。

3 端末のMACアドレスを親機に登録します。親機に直接接続する可能性がある端末を、いったん親機に無線接続します。接続方法は、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

4 親機の設定画面を表示します。親機がWSR-1166DHP3の場合は、第2章の「設定画面を表示する」を参照してください。

以下の手順・画面は、親機がWSR-1166DHP3の場合の例です。異なる親機をご利用の場合は、親機の取扱説明書に従ってください。

5「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

6「登録リストの編集」をクリックします。

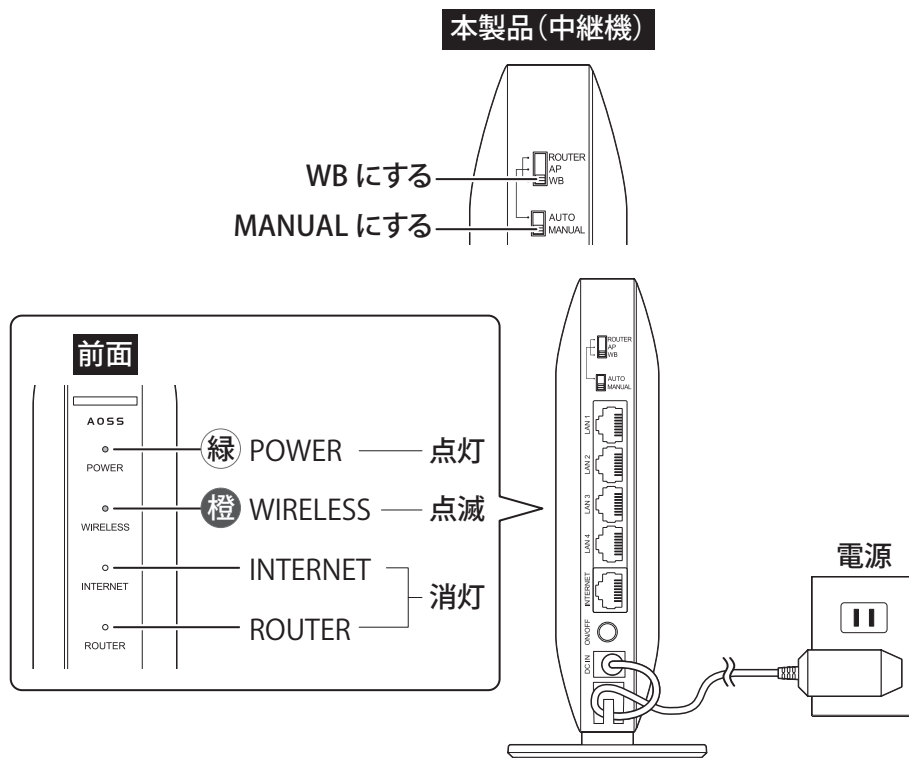
7「検出された無線パソコン一覧」欄で、手順3で接続した端末のMACアドレスすべてに対して［登録］をクリックします。

メモ: ここではMACアドレスを親機に登録するだけです。制限を有効にはしません。

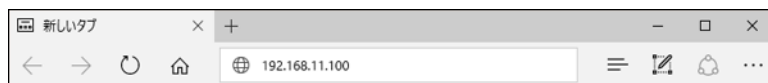
続いてステップ 2へ進みます。

ステップ２　中継機（本製品）のMACアドレスを親機に登録する

中継機（本製品）の設定画面を表示するために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

1 中継機（本製品）の背面のスイッチを「WB」、「MANUAL」にして、電源を入れます。
約1分後、前面ランプが以下の状態になっていることを確認します。
本製品のランプが以下の状態でない場合は、本製品底面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点灯するまで（約3秒間）押して初期化してください。

2 第5章の「IPアドレスの固定方法」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx（例：192.168.11.135）に固定します。

3 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

4 Webブラウザー（Internet Explorerなど）を起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。

5 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード（出荷時設定では「password」）を入力し、[ログイン]をクリックします。

6 「詳細設定」－「ステータス」－「システム」をクリックします。

7 「中継機能」に記載されているMACアドレスをメモなどに控えます。

WB	SSID	Buffalo-A-XXXX
	認証方式	WPA2-PSK
	暗号化	AES
	無線チャンネル	48(5GHz)

8 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

9 設定用パソコンからLANケーブルを取り外し、手順2で固定したIPアドレスを自動取得に戻します。

10 設定用パソコンを親機に接続し、設定画面を表示します。

以下の手順・画面は、親機がWSR-1166DHP3の場合の例です。異なる親機をご利用の場合は、親機の取扱説明書に従ってください。

11 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

12 「登録リストの編集」をクリックします。

13 「登録するMACアドレス」欄に、手順7でメモしたMACアドレスを入力して[新規追加]をクリックします。

14 [編集を終了して前の画面に戻る]をクリックした後、「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、[設定]をクリックします。

メモ: 2.4GHz、5GHz両方とも「制限する」に設定してください。

15 設定が反映されていることを確認し、親機からログアウトします。

以上でMACアドレスの登録は完了です。
本章の「本製品を中継機として使用する」を参照して、中継機を親機に接続してください。

インターネット有害サイトへのアクセスを制限する（「i-フィルター」）

「i-フィルター」機能を使用して、インターネット有害サイトへのアクセスを制限する方法を説明します。

メモ:

- 「i-フィルター」機能を使用するには、ユーザー登録が必要です。初回登録時、トライアル期間として60日間無料で使用できます。
- トライアル期間終了後、継続して使用する場合は、「i-フィルター」サービスページで継続契約（有料）してください。

- 「i-フィルター」機能は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

3 「セキュリティー」ー「i-フィルター」をクリックします。

4 [「i-フィルター」サービスページ>>] をクリックすると、ユーザー登録画面が表示されます。画面にしたがってユーザー登録を行ってください。

5 「「i-フィルター」機能」の「使用する」にチェックを入れ、「閲覧禁止カテゴリー」を設定し、[設定]をクリックします。

メモ:

- 「「i-フィルター」機能」の「使用する」のチェックを外すには、管理者パスワードを設定する必要があります。「詳細設定」ー「管理」ー「システム設定」から設定してください。
- 「有効期間」は、「「i-フィルター」機能が有効」かつ「ユーザー登録後、契約期間が取得済み」の場合に表示されます。

6 「i-フィルター」機能を適用しないパソコンがある場合は、[除外パソコンリストの編集]をクリックします。

7「登録するMACアドレス」を入力して、[新規追加]をクリックします。

メモ:

- MACアドレスは2桁ずつ、コロン（:）で区切って入力します。
- 複数のMACアドレスを入力する場合は、スペースで区切って入力します。
- 「検出されたパソコンリスト」に「i-フィルター」を適用しないパソコンがある場合は、[追加]をクリックして追加できます。

8［編集を終了して前の画面へ戻る］をクリックします。

以上で設定は完了です。

インターネットに接続できる時間を制限する（アクセスコントロール）

アクセスコントロール機能を使用すると、本製品に登録した端末がインターネットに接続できる時間を制限できます。

メモ: アクセスコントロールは、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2「詳細設定」のパネルをクリックします。

3「セキュリティー」–「アクセスコントロール」をクリックします。

4［新規追加］をクリックします。

5 「対象のパソコン」欄に、接続を制限したい端末のMACアドレスを入力します。

メモ: MACアドレスは2桁ずつ、コロン（:）で区切って入力します。

6 インターネットの利用可能/利用不可能時間を設定します。

メモ:

- 例えば、21:00〜06:00を利用不可にする場合は、利用状態を「利用不可」、開始時間を「21:00」、終了時間を「06:00」、曜日を「日、月、火、水、木、金、土」に設定し、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックします。
- 時間帯をさらに細かく調整したい場合は、利用状態、開始/終了時間を設定して、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックする操作を繰り返します。

7 [新規追加]をクリックします。

8 アクセスコントロールの設定画面に戻りますので、アクセスコントロールの「使用する」にチェックを入れて、画面下部の[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

ポートを開放する

ポート変換設定を行うと、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバー公開することができます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。
  ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、以下を参照してください。
  利用するポート番号が不明な場合は、後述の「利用するポート番号が不明な場合」を参照してください。

ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「セキュリティー」ー「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、[新規追加]をクリックします。

グループ:
登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。

Internet側IPアドレス:
公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。Internet側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は各PPPoE接続先のInternet側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のInternet側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定することが可能です。

プロトコル:
アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。[TCP/UDP]を選択したときは、ポートを設定します。

LAN側IPアドレス:
インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。

LAN側ポート：
変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更することができます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW（HTTP）サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。
グループ：
任意の名称（例：group1）を入力します。

Internet側IPアドレス：
［エアステーションのInternet側IPアドレス］を選択します。

プロトコル：
TCP/UDPを選択し、［HTTP（TCPポート：80）］を選択します。（任意のTCP/UDPポートは空欄）

LAN側IPアドレス/LAN側ポート：
LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス（例：192.168.11.210）を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

4 設定内容が登録されていることを確認します。

ポート変換登録情報

グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作
group1	エアステーションのInternet側IPアドレス 192.168.11.210	TCP ポート:80 TCP ポート:80	OFF 修正 削除

以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「セキュリティー」－「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、[設定]をクリックします。

DMZのアドレス 192.168.11.210
* WEB設定を行っているパソコンのIPアドレス 192.168.11.2.

メモ:

- DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの端末でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ポート変換の設定で[LAN側IPアドレス]を設定した場合は、そちらの設定が優先されます。
- DMZを使用する場合は、端末側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- DMZに設定した端末は、他のパソコンに比べてセキュリティーが低下するため、重要なデータなどをその端末に保存しないことをおすすめします。
- 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

エアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスをかんたんに変更することができます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windowsをお使いの場合

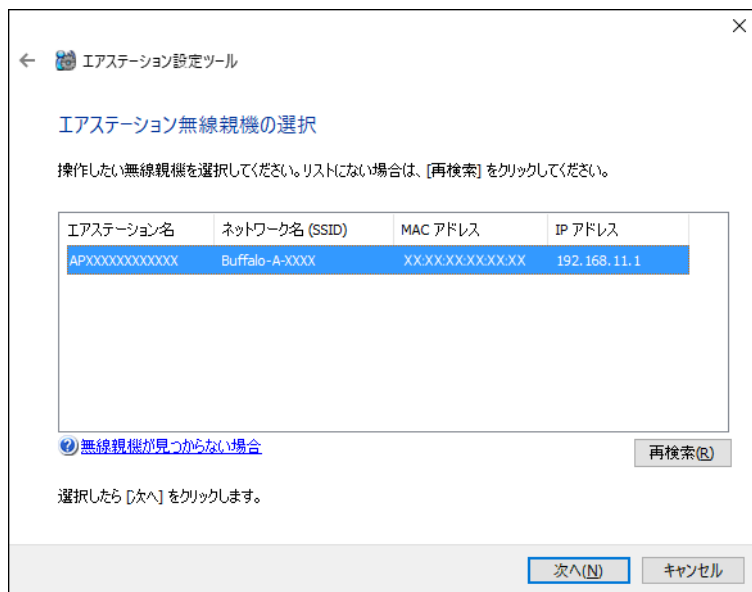
メモ:

- エアステーション設定ツールがインストールされていない場合は、第2章の「エアステーション設定ツールのインストール」を参照してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面からも変更できます。

1 エアステーション設定ツールを起動します。
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。

メモ: パソコンに複数のネットワークアダプタが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプタを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 ［この無線親機のIPアドレスを設定する］をクリックします。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、［はい］をクリックしてください。

6 本製品に設定されている管理パスワード（出荷時状態では「password」）を入力し、[次へ]をクリックします。

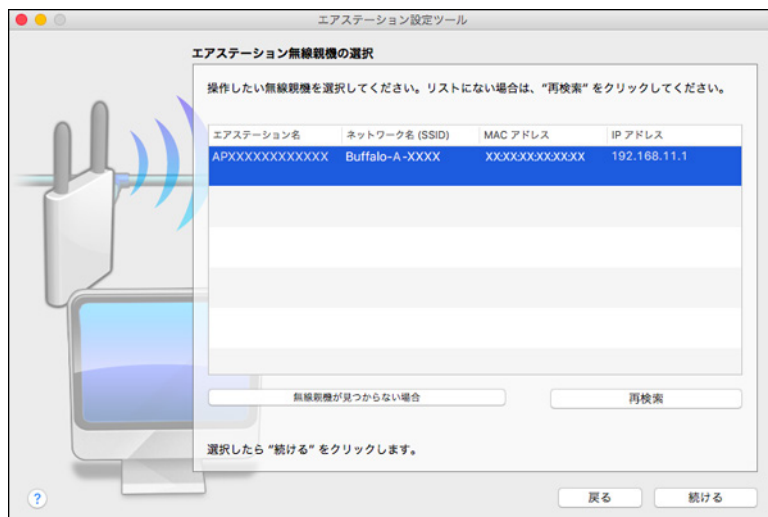
7 [完了]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

1 エアステーション設定ツールを実行します。

2 ［続ける］をクリックします。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、［続ける］をクリックします。

メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

5 新しく設定するIPアドレスを入力して[続ける]をクリックします。

メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[無視して続ける]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード（出荷時状態では「password」）を入力し、[続ける]をクリックします。

7 ［終了］をクリックします。

以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする（PPPoEマルチセッション）

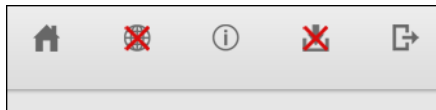
本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下の設定を行ってください。

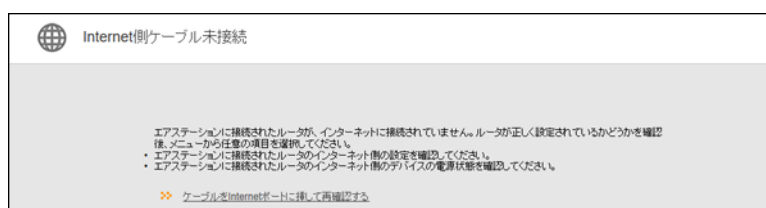
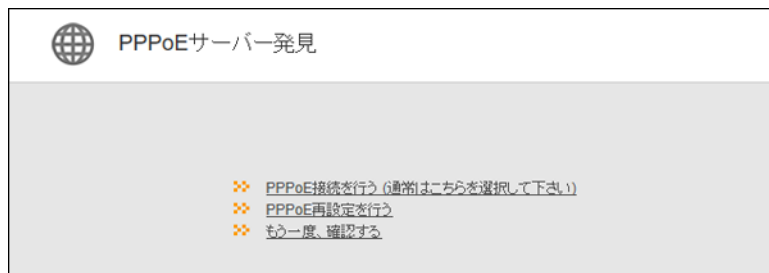
メモ:

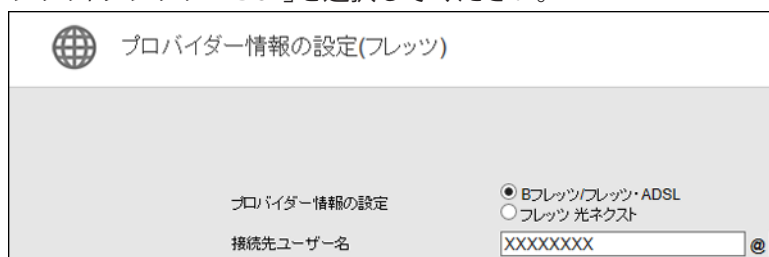
- NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 本製品背面のINTERNET端子（青色の端子）からLANケーブルを取り外します。

3 設定画面右上の に×マークが付くことを確認します。

4 をクリックします。

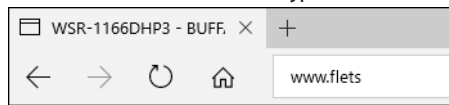
5 手順2で抜いたLANケーブルを、本製品背面のINTERNET端子（青色の端子）に再度接続し、「ケーブルをINTERNETポートに挿して再確認する」をクリックします。

6 「PPPoE再設定を行う」をクリックします。

7 お使いの回線の種別に合わせて「プロバイダー情報の設定」を選択します。

フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。

8 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄（フレッツ 光ネクスト用）または「サービス情報サイト」欄（Bフレッツ/フレッツ・ADSL用）で、「NTT東日本」または「NTT西日本」を選択し、[進む]をクリックします。

メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

9 「接続成功です」と表示されたら、[設定完了]をクリックします。

10 Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。

フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」（NTT東日本向け）または「v4flets-west.jp」（NTT西日本向け）と入力して、Enterキーを押します。

11 サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する（IP Unnumbered）

本製品は、IP Unnumbered機能に対応しています。IP Unnumbered機能を使用することで、プロバイダーから配布された複数のグローバルIPアドレスを本製品に接続した端末で使用できます。ここでは例として、以下の場合の設定例を説明します。

メモ: 本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

例：プロバイダーから「123.45.67.8（サブネットマスク255.255.255.248）」（固定IPアドレス8個）というIPアドレスが割り当てられた場合

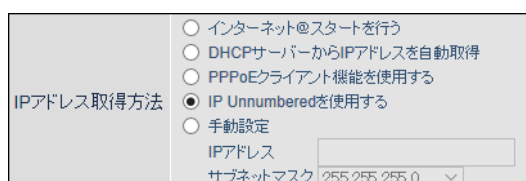
Internet側アドレス（自動設定） - 123.45.67.8（ネットワークアドレス）
LAN側アドレス（手動設定） - 123.45.67.9（ゲートウェイ）
1台目のパソコン（手動設定） - 123.45.67.10（グローバルIPアドレス）
・
・
5台目のパソコン（手動設定） - 123.45.67.14（グローバルIPアドレス）
ブロードキャストアドレス - 123.45.67.15（ブロードキャストアドレス）
サブネットマスク - 255.255.255.248

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

1 本製品背面のスイッチを「ROUTER」、「MANUAL」に設定します。

2 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

3 「詳細設定」－「Internet」－「Internet」をクリックします。

4 「IP Unnumberedを使用する」を選択し、[設定]をクリックします。

5 設定が保存されたら、「詳細設定」－「Internet」－「PPPoE」をクリックします。

6 「PPPoE接続先リスト」欄にある、[接続先の編集]をクリックします。

7 接続先を登録し、[新規追加]をクリックします。

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

8 接続先が登録されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

9 「IP Unnumbered使用時の接続先」を選択して、[設定]をクリックします。

10 設定が保存されたら、「詳細設定」－「LAN」－「LAN」をクリックします。

11 本製品のLAN側IPアドレス（IP Unnumbered用）の設定をして、[設定]をクリックします。

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

12 「LAN側IPアドレスを変更します」と表示されたら、[設定]をクリックします。

13 プロバイダーから送られてきた資料を参照して、本製品に接続するパソコンのIPアドレスを設定します。

以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ:
本製品のルーター機能をオフにすると、本製品のIPアドレスが「192.168.11.100」に変更されます。また、以下の機能が無効になりますのでご注意ください。

- DHCPサーバー（IPアドレス自動割当）機能
- 静的IPマスカレード（アドレス変換）機能
- パケットフィルター機能
- PPPoEマルチセッション機能
- IP Unnumbered機能

1 本製品背面のスイッチを「AP」、「MANUAL」に設定します。

2 本製品に接続している端末を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」をクリックします。

3 ファームウェアのバージョンを確認します。

メモ: 製品名欄の「Ver.X.XX」の部分がファームウェアのバージョンです。

本製品のファームウェアを更新する

本製品のファームウェアの更新設定は、2つの方法があります。

自動的に更新する場合

新しいファームウェアが公開された際に自動的に更新する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「管理」ー「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェア自動更新機能で「常に最新版に更新する」と更新時刻を設定し、[設定]をクリックします。

メモ:

- 本製品の時刻設定が正しくない場合（画面に が表示されている場合）は、「管理」ー「システム設定」の画面でNTP機能を「使用する」に設定してください。
- ファームウェア更新中は、再起動などにより、本製品に接続している機器が一時的に切断されます。そのため、更新時刻は、本製品を使用していない時間帯に設定することをおすすめします。
- 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中（前面のPOWERランプが橙色に点滅中）は、本製品の電源をオフにしないでください。

以上で設定は完了です。
設定後に新しいファームウェアがリリースされた場合、上記で設定した時間帯に更新が行われます。

手動で更新する場合

本製品をお使いの方が、お好みのタイミングでファームウェアを更新したい場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」ー「管理」ー「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェアを更新します。

ファームウェアファイルがある場合は、[参照]をクリックしてファームウェアファイルを選択し、[更新実行]をクリックします。
ファームウェアファイルがない場合は、「オンラインバージョンアップ」を選択し、[更新実行]をクリックして画面の指示に従ってください。

メモ: 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中（前面のPOWERランプが橙色に点滅中）は、本製品の電源をオフにしないでください。

以上で設定は完了です。

第4章　困ったときは

インターネットにつながらない

原因1　動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。背面のスイッチを以下のように設定してください。

MANUAL/AUTOスイッチ：　AUTO
ROUTER/AP/WBスイッチ：　ROUTER

原因2　プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因3　インターネットに接続しようとする機器が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第2章の「設定画面を表示する」を参照してください。
- 無線での接続方法は、製品添付の取扱説明書を参照してください。

原因4　インターネットの設定が間違っている

製品添付の取扱説明書を参照して、インターネットの設定をやり直してください。

無線接続が切れる/不安定

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因2　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しを良くしてください。

原因3　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になる場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因4　本製品のファームウェアが古い

上記1～3の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因5　無線機器のドライバーが古い

上記1～4の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続く場合は、無線機器のドライバー（ソフトウェア）を最新版に更新してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続が切れる場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続が途切れないように設定してください。

無線でつながらない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因2　本製品と無線機器の距離が遠い

本製品と無線機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。無線機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しを良くしてください。

原因3　セキュリティーソフトが動作している

無線機器にウイルス対策ソフトなどのセキュリティーソフトがインストールされている場合、無線接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティーソフトを終了して、無線接続設定を完了させてからセキュリティーソフトを起動してください。

原因4　無線接続の設定が間違っている

無線接続の設定が間違っていると、本製品に無線で接続できません。製品添付の取扱説明書を参照して、接続してください。

原因5　本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、無線機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。
本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品に無線接続できません。無線機器のMACアドレスを本製品に登録してから無線接続してください。

原因6　本製品が省電力モードで動作している

本製品の節電機能を使用している場合、設定内容によっては、無線接続できない場合があります。節電機能のスケジュール登録を変更するなどして、無線接続できるように設定してください。

設定画面が表示できない

原因1　本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、再度オンにしてください。

原因2　設定用機器が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第2章の「設定画面を表示する」を参照してください。
- 無線での接続方法は、製品添付の取扱説明書を参照してください。

無線での通信が遅い

原因1　本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。
それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因2　倍速設定が無効になっている

本製品の2.4 GHz（11n/g/b）の倍速設定は、出荷時の状態で無効に設定されています。倍速設定を有効に設定することで、無線での通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの機器の設定も必要になる場合があります。
- 倍速設定は、通常の（20 MHz）の以上の帯域を使って通信します。2.4 GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、通信速度が向上しないことがあります。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、底面のRESETボタンを前面のPOWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）押し続けてください。その後、本製品が再起動したら設定の初期化は完了です。

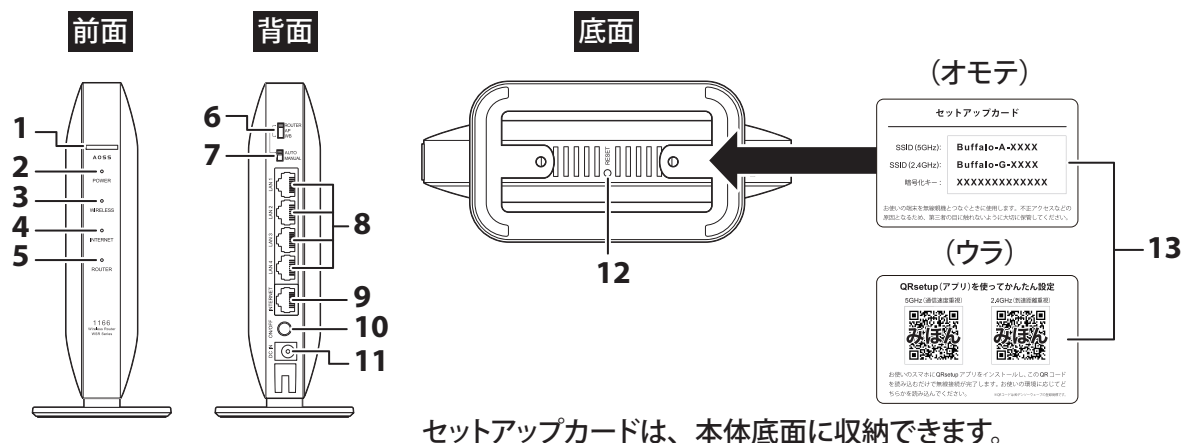
第５章　付録

製品仕様

無線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11n / IEEE 802.11a / IEEE 802.11g / IEEE 802.11b ARIB STD-T71（IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a） ARIB STD-T66（IEEE 802.11g / IEEE 802.11b） （小電力データ通信システム規格）
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多重変調（MIMO-OFDM）方式 直交周波数分割多重変調（OFDM）方式 直接拡散型スペクトラム拡散（DS-SS）方式 単信（半二重）
周波数範囲（中心周波数）	IEEE 802.11ac / IEEE 802.11a： W52　36/40/44/48 ch （5180～5240 MHz） W53　52/56/60/64 ch （5260～5320 MHz） W56　100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140 ch （5500～5700 MHz） IEEE 802.11g / IEEE 802.11b： 1～13 ch （2412～2472 MHz） 基本的に携帯電話、コードレスフォン、テレビ、ラジオ等とは混信しませんが、これらの機器が、2.4 GHz帯の無線を使用する場合や電子レンジが動作している場合は、電波干渉によって通信障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
セキュリティー	AOSS、WPA2-PSK（AES）、WPA-PSK（AES）、WPA/WPA2 mixed PSK（TKIP/AES mixed）、WEP（128 bit / 64-bit）、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、MACアクセス制限
802.11acデータ転送速度（オートセンス）	**IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Long GI>：** 156/130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 78/65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 20 MHz BW <Short GI>：** 173.3/144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 86.7/72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Long GI>：** 360/324/270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 180/162/135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 40 MHz BW <Short GI>：** 400/360/300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 200/180/150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Long GI>：** 780/702/585/526.5/468/351/234/175.5/117/58.5 Mbps (2 stream) 390/351/292.5/263.3/234/175.5/117/87.8/58.5/29.3 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11ac 80 MHz BW <Short GI>：** 866.7/780/650/585/520/390/260/195/130/65 Mbps (2 stream) 433.3/390/325/292.5/260/195/130/97.5/65/32.5 Mbps (1 stream)

802.11n/a/g/bデータ転送速度 （オートセンス）	**IEEE 802.11n 20 MHz BW <Long GI>：** 130/117/104/78/52/39/26/13 Mbps (2 stream) 65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 20 MHz BW <Short GI>：** 144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4 Mbps (2 stream) 72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Long GI>：** 270/243/216/162/108/81/54/27 Mbps (2 stream) 135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11n 40 MHz BW <Short GI>：** 300/270/240/180/120/90/60/30 Mbps (2 stream) 150/135/120/90/60/45/30/15 Mbps (1 stream) **IEEE 802.11 a / IEEE 802.11g：** 54/48/36/24/18/12/9/6 Mbps **IEEE 802.11b：** 11/5.5/2/1 Mbps
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3 ab（1000BASE-T）/IEEE 802.3u（100BASE-TX）/ IEEE 802.3（10BASE-T）
データ転送速度	10/100/1000 Mbps（自動認識）
データ伝送モード	半二重/全二重（自動認識）
伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5（1000BASE-T）/4B5B/MLT-3（100BASE-TX）/マンチェスターコーディング（10BASE-T）
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T / 100 BASE-TX / 10 BASE-T 兼用端子（AUTO-MDIX）
その他	
電源	AC 100　50/60 Hz
消費電力	8.19 W（最大）
外形寸法	160（H）x 160（D）x 37（W）mm（本体のみ）
重量	317 g（本体のみ）
動作環境	0 ～ 40 ℃、10 ～ 85 % （結露しないこと） 本製品は屋内使用に限ります。

各部の名称とはたらき

セットアップカードは、本体底面に収納できます。

1 AOSSボタン

本製品の電源を入れた状態で、WIRELESSランプが点滅するまで（約1秒間）ボタンを押すと、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
約10秒間押し続けると、無線引っ越し設定の待ち受け状態になります。

2 POWERランプ

点灯（緑）：　電源がオンの状態、通常状態
点滅（緑）：　システムが起動中
消灯：　電源がオフの状態
点滅（橙）：　エラー発生時
※エラー発生時は、本製品の電源を入れ直してください。再びランプが同じように橙色に点滅している場合や、すべてのランプが橙色に点灯している場合は、当社サポートセンターにお問い合わせください。（別紙「セットアップガイド 新規設置編」に記載のお問い合わせ先を参照してください。）

3 WIRELESSランプ

点灯（緑）：　無線LAN動作時/無線LAN通信時
点滅（橙）：　WBモード（中継機）で動作中で親機に接続していない状態
2回点滅（緑）：　AOSS/WPS待ち受け状態
連続点滅（緑）：　AOSS/WPS失敗
消灯：　無線LAN無効時

4 INTERNETランプ

インターネットに接続可能なときに緑色に点灯しますが、お使いの環境により消灯する場合もあります。消灯していてもインターネットに接続できるときは、異常ではありませんので、そのままお使いください。

5 ROUTERランプ

ROUTERモードで動作しているときに緑色に点灯します。APモードおよびWBモード（中継機）で動作しているときは、消灯します。

6 ROUTER/AP/WBスイッチ

7のスイッチが「MANUAL」のときに、本製品の動作モード（ROUTER/AP/WB（中継機））を切り替えるスイッチです。7のスイッチが「AUTO」のときは、ROUTER/APを自動判別して動作します。

7 MANUAL/AUTOスイッチ

MANUAL：　6のスイッチに従ってモードを切り替えます。
AUTO：　6のスイッチに関係なく、ルーター機能のオン/オフを自動設定します。

8 LAN端子

パソコンやハブなどを接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

9 INTERNET端子

プロバイダーから提供された機器（モデムなど）を接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

10 電源ボタン

本製品の電源のオン/オフを行うボタンです。電源をオフにしたときは、内部処理を行うため、実際に電源が切れるまで10秒程度かかります。

11 DCコネクター

付属のACアダプターを接続します。

12 RESETボタン

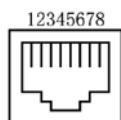
本製品の電源を入れた状態で、POWERランプが緑色に点滅するまで（約3秒間）ボタンを押し続けると、本製品が出荷時設定に戻ります。

13 セットアップカード

SSIDや暗号化キーなどが記載されたカードです。本製品に無線接続する際に使用しますので、紛失しないよう大切に保管してください。

端子仕様

LAN端子/Internet端子仕様

コネクター形状（RJ-45型8極コネクター）

100BASE-TX/10BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	RD+/TD+	受信データ（+）/送信データ（+）
2	RD-/TD-	受信データ（-）/送信データ（-）
3	TD+/RD+	送信データ（+）/受信データ（+）
4	(Not Use)	未使用
5	(Not Use)	未使用
6	TD-/RD-	送信データ（-）/受信データ（-）
7	(Not Use)	未使用
8	(Not Use)	未使用
1000BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	BI_DA+/BI_DB+	送受信データA（+）/送受信データB（+）
2	BI_DA-/BI_DB-	送受信データA（-）/送受信データB（-）
3	BI_DB+/BI_DA+	送受信データB（+）/送受信データA（+）
4	BI_DC+/BI_DD+	送受信データC（+）/送受信データD（+）

5	BI_DC-/BI_DD-	送受信データC（-）/送受信データD（-）
6	BI_DB-/BI_DA-	送受信データB（-）/送受信データA（-）
7	BI_DD+/BI_DC+	送受信データD（+）/送受信データC（+）
8	BI_DD-/BI_DC-	送受信データD（-）/送受信データC（-）

メモ: ※ AUTO-MDIX機能により、送信/受信データを自動的に切り替えます。

初期設定一覧

機能	項目	出荷時設定
Internet	**IPアドレス取得方法**	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	―
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	―
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	**デフォルトの接続先**	未設定
	IP Unnumbered使用時の接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
Dynamic DNS	**ダイナミックDNS機能**	使用しない
アドレス変換	**アドレス変換**	使用する
	拡張設定	表示しない
	TCPタイムアウト時間	2500秒
LAN	**LAN側IPアドレス**	IPアドレス：　192.168.11.1 サブネットマスク：　255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	―
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
DHCPリース	**リース情報**	未設定
経路情報	**経路情報**	―

機能	項目	出荷時設定
2.4 GHz（11n/g/b） 5 GHz（11 ac/n/a）	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	倍速モード	2.4 GHz： 144 Mbps（20 MHz）、拡張チャンネルは自動設定 5 GHz： 866 Mbps（80 MHz）
	ANY接続	許可する
	SSID 1	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2-PSK
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK (事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2	使用しない
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	WEP暗号化キー設定	未設定
	BSS BasicRateSet	2.4 GHz：　1, 2, 5.5, 11 Mbps 5 GHz：　6, 12, 24 Mbps
	Multicast Rate	2.4 GHz：　1 Mbps 5 GHz：　6 Mbps
	802.11nプロテクション	使用しない
	DTIM Period	1
	プライバシーセパレーター	使用しない
	送信出力	100 %
WPS	WPS機能	使用する
	外部Registrar	使用する
	エアステーションのPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み
	EnrolleeのPINコード	空欄
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス：　Configured セキュリティー：　WPA2-PSK AES SSID/暗号鍵： 製品付属のセットアップカードに記載の値
AOSS	AOSS状態	AOSS 無効
	WEPをゲーム専用にする	使用しない
	本体側AOSSボタン	使用する
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない
	登録リスト	未登録

機能	項目	出荷時設定
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する
	マルチキャストAging Time	300秒
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない
	ゲストユーザー認証機能	使用しない
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定
	利用可能時間	3時間
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	認証を行わない
	無線の暗号化	暗号化なし
	ゲストユーザー	未登録
無線引っ越し機能	無線引っ越し状態	未実施
ファイアウォール	簡易ルール	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する　無効 IDENTの要求を拒否する　有効 Internet側からのPINGに応答しない　有効
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
VPNパススルー	フレッツIPv6サービス対応機能	使用しない
	PPPoEパススルー機能	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP機能	使用する
i-フィルター	「i-フィルター」機能	使用しない
アクセスコントロール	アクセスコントロール	使用しない
QoS	インターネットへの送信用QoS	使用しない
スケジュール	省電力	使用しない
	ランプ	オフ
	LAN側有線	エコ（低速動作）
	LAN側無線	オフ
	週間スケジュール	未登録
	動作モード	通常動作
	開始時間	0:00
	終了時間	0:30
	曜日	未登録

機能	項目	出荷時設定
システム設定	エアステーション名	AP＋本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin (変更することはできません)
	管理パスワード	password
	制限項目	無線LANからの設定を禁止する　無効 有線LANからの設定を許可する　無効 Internet側リモートアクセス設定を許可する　無効 デバイスのwwwポート監視を禁止する　無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎
	タイムゾーン	(GMT＋09:00) 東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPoEクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク
	詳細なログ取得	取得しない
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う
	更新時刻	毎日04:00〜04:59

コントロールパネルの表示方法

Windowsのコントロールパネルの開き方は、OSによって異なります。以下の手順で開いてください。

Windows 10の場合

1 タスクバー上のWindowsロゴ（スタート）をクリックして表示されるメニューから、[Windowsシステムツール] ー [コントロールパネル] を選択します。

Windows 8.1の場合

1 デスクトップ画面を表示させます。

2 画面右下隅にポインターを移動させ、そのまま上方向に移動させるとチャームが表示されるので、[設定] をクリックします。

3 [コントロールパネル] をクリックします。

Windows 7の場合

1 「スタート」メニューから、[コントロールパネル] を選択します。

IPアドレスの固定方法

Windows 10/8.1の場合

1 [コントロールパネル]を選択します。

メモ: コントロールパネルの表示方法は、上記「コントロールパネルの表示方法」を参照してください。

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークと共有センターの「アダプター設定の変更」をクリックします）

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。
- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 7の場合

1 コントロールパネルを表示します。

メモ: コントロールパネルの表示方法は、上記「コントロールパネルの表示方法」を参照してください。

2 ネットワーク接続の画面を表示します。
（ネットワークと共有センターの「アダプター設定の変更」をクリックします）

3 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、LANケーブルで接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［はい］または［続行］をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコル バージョン4（TCP/IPv4）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 以下のように設定して、［OK］をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- デフォルトゲートウェイは空欄
- 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

メモ: 設定を元に戻す場合は、上記で「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

6 ［閉じる］をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macの場合

1 システム環境設定を表示します。

2 ネットワークをクリックします。

3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。

4 IPv4の構成で「手入力」を選択します。

5 以下のように設定して、［適用］をクリックします。

- 「次のIPアドレスを使う」を選択
- IPアドレス「192.168.11.135」
- サブネットマスク「255.255.255.0」
- ルーターは空欄

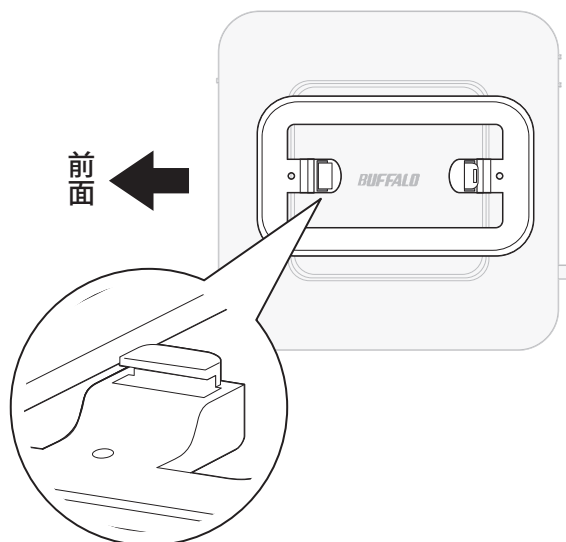
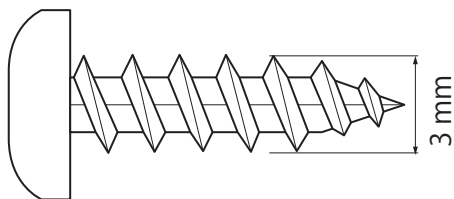
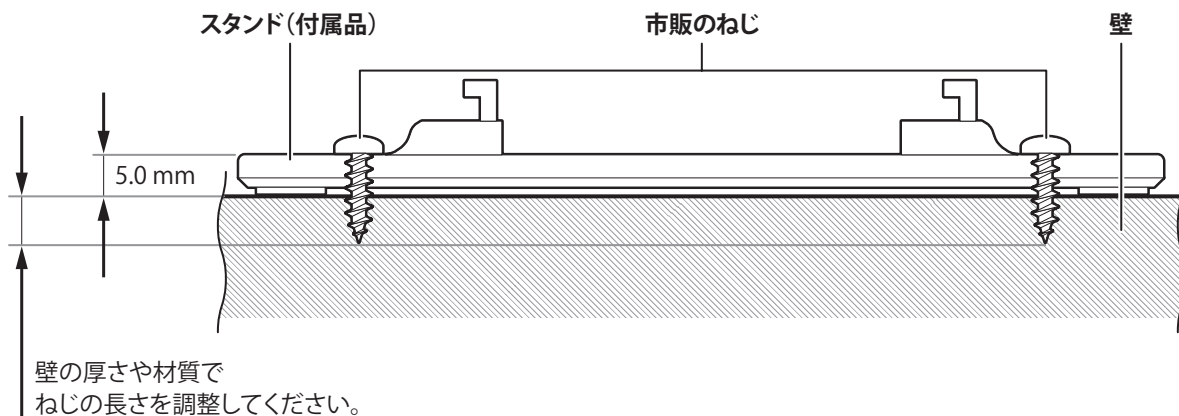
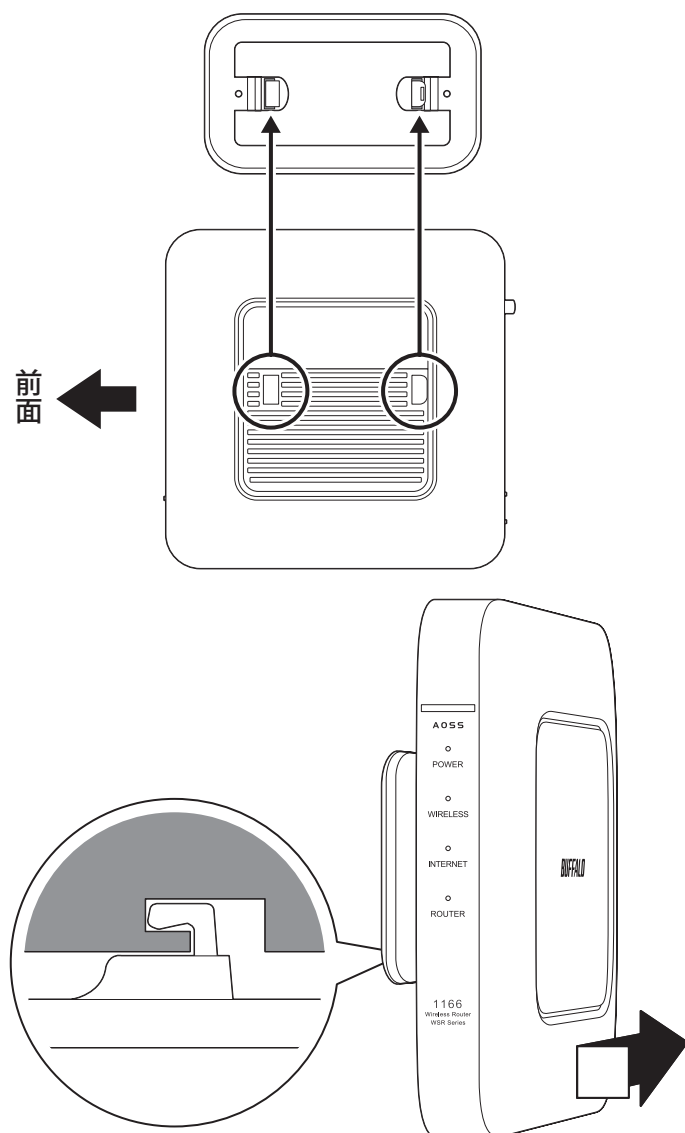
メモ: 設定を元に戻す場合は、IPv4の構成で「DHCPサーバを使用」を選択して、［適用］をクリックしてください。

以上で設定は完了です。

壁面への取り付けについて

市販のネジを使用すると、本製品を壁面へ取り付けることができます。
壁面への取り付け手順は、以下を参照してください。

1 突起部分が下図の向きになるように、スタンドを壁にねじ止めします。

メモ:

- ねじは、M3.0「なべ頭タッピングねじ」を使用してください。

- ねじの長さは、スタンドの厚さ（5.0 mm）と取り付ける壁の材質や厚みに合わせて調整してください。

2 本製品本体をスタンドに固定します。下図のように、本製品をスライドして固定してください。

以上で壁面への取り付けは完了です。

免責事項

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品（付属品等を含む）を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

商標・登録商標

i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
BUFFALO™は、株式会社メルコホールディングスの商標です。
AirStation™、AOSS™は、株式会社バッファローの商標です。
本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では、™、Ⓡ、Ⓒなどのマークは記載していません。